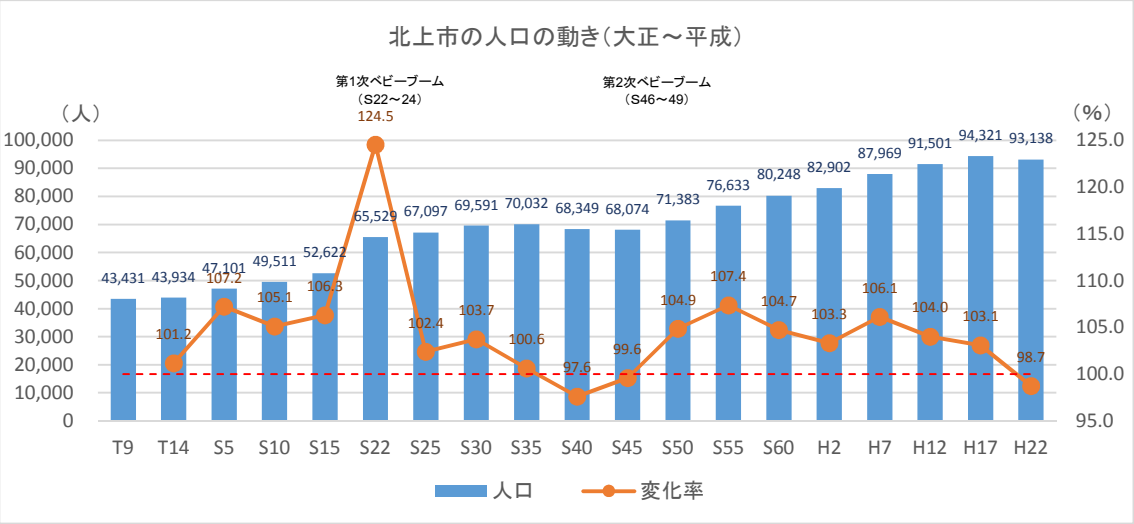
第２章　北上市の人口現状分析

１．人口推移と将来人口

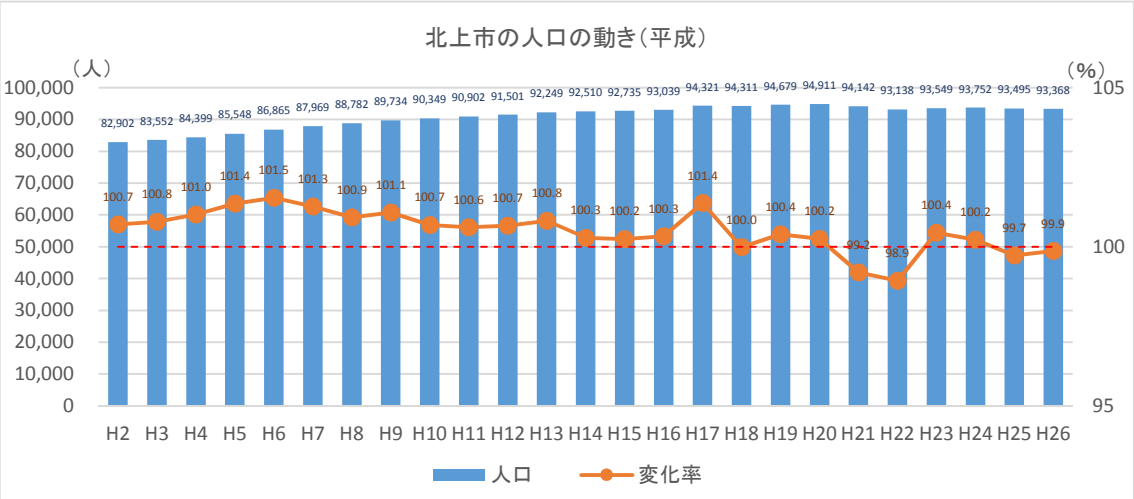
（１）人口推移

①総人口

北上市の人口を長期スパンでみると、戦後の昭和 22 年の 65,529 人から昭和 35 年まで人口増加が続いていましたが、昭和 35 年から昭和 45 年において一時的に人口減少に転じました。昭和 50 年以降は人口増加が長く続きましたが、平成 17 年の 94,321 人をピークに再び人口減少に転じ、平成 22 年には 93,138 人となっています。



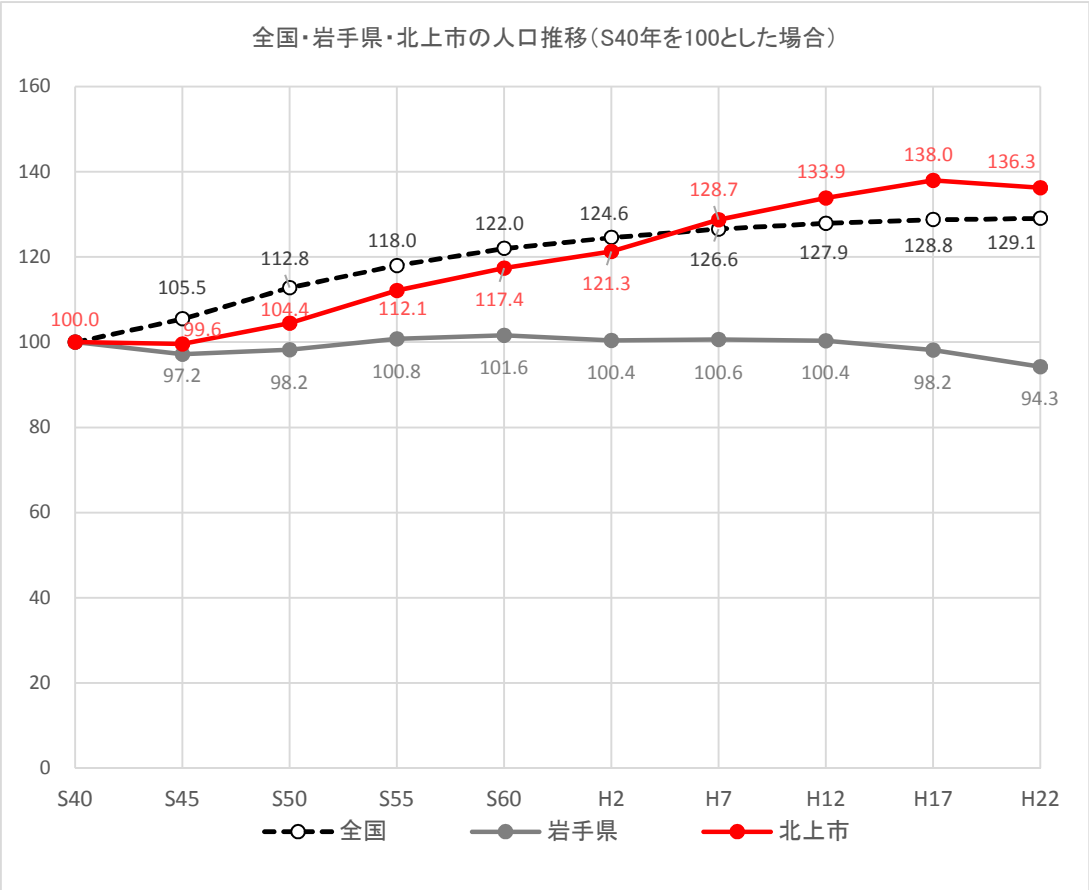
出典：国勢調査



出典：岩手県人口移動報告年報

※「岩手県人口移動報告年報」＝「岩手県毎月人口推計の年報」
毎月人口推計は、５年ごとに実施される国勢調査の常住人口（１０月１日現在）を基準として、各月の出生、死亡、転入、転出、外国人登録及び帰化の届出数を加減して、各月の常住人口とみなしていることから、推計人口としている。

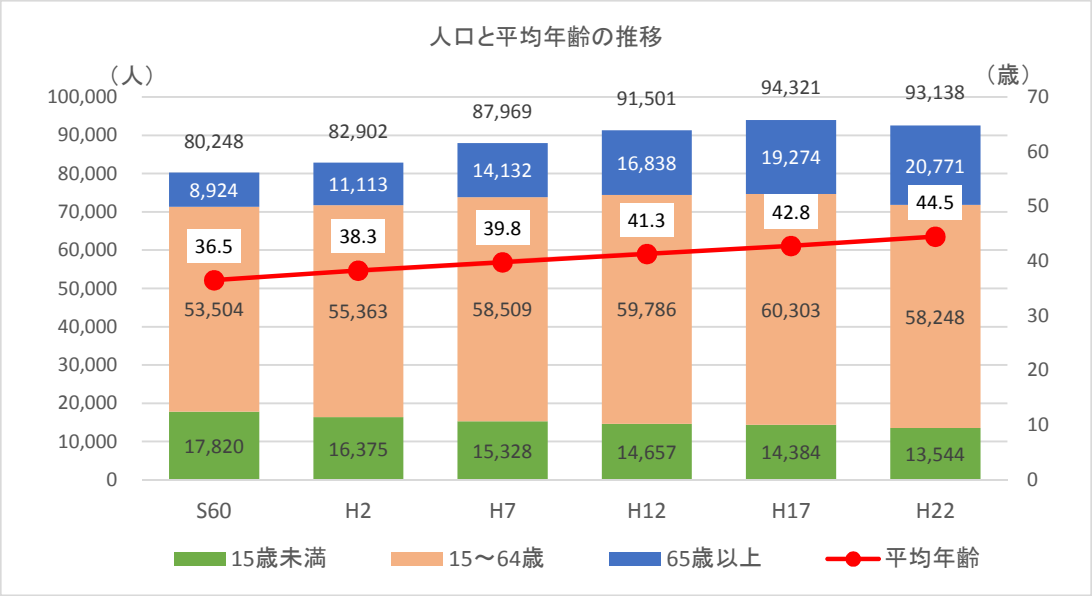
また、人口推移の状況を、全国・岩手県・北上市で比較してみると、近年、全国は横ばい、岩手県は減少傾向で推移しています。北上市は平成 7 年以降、全国や岩手県よりも高い率で増加傾向にありましたが、平成 22 年に減少に転じています。



出典：国勢調査

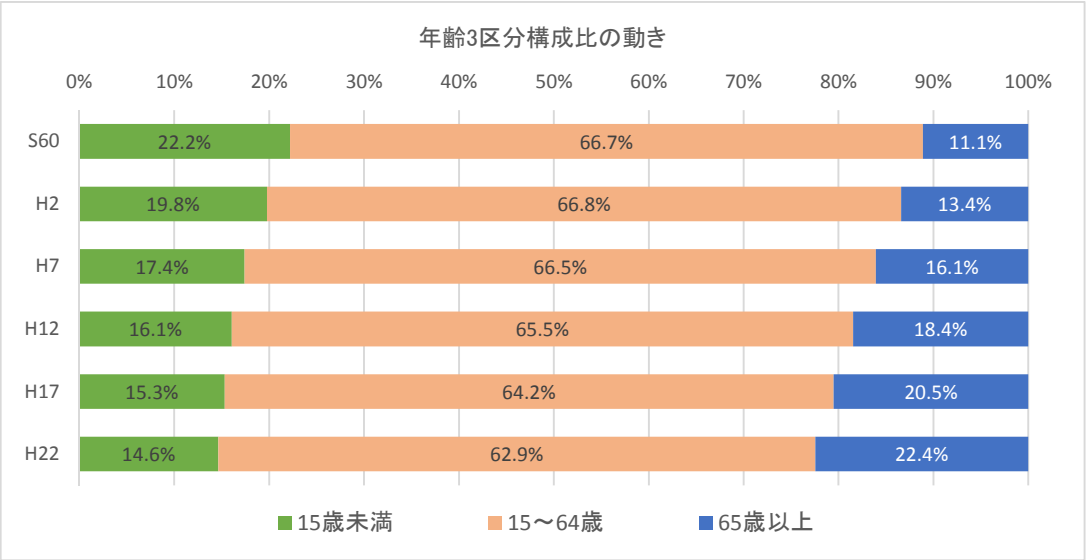
②年齢３区分別人口と平均年齢

年齢３区分別人口では、年少人口（0～14 歳）の減少傾向、老年人口（65 歳以上）の増加傾向が続き、平成 12 年を境に老年人口が年少人口を上回りました。生産年齢人口（15～64 歳）は平成 17 年まで増加傾向が続きましたが、平成 22 年に減少に転じました。平均年齢は少子高齢化の進展に伴って上昇し続けており、平成 22 年で 44.5 歳となっています。



出典：国勢調査

年齢３区分の構成比をみると、老年人口の割合は高まっており、20 年前の平成２年は 13.4%、10 年前の平成 12 年では 18.4%でしたが、平成 22 年では 22.4%となっています。（全国：23.0%、岩手県：27.2%）

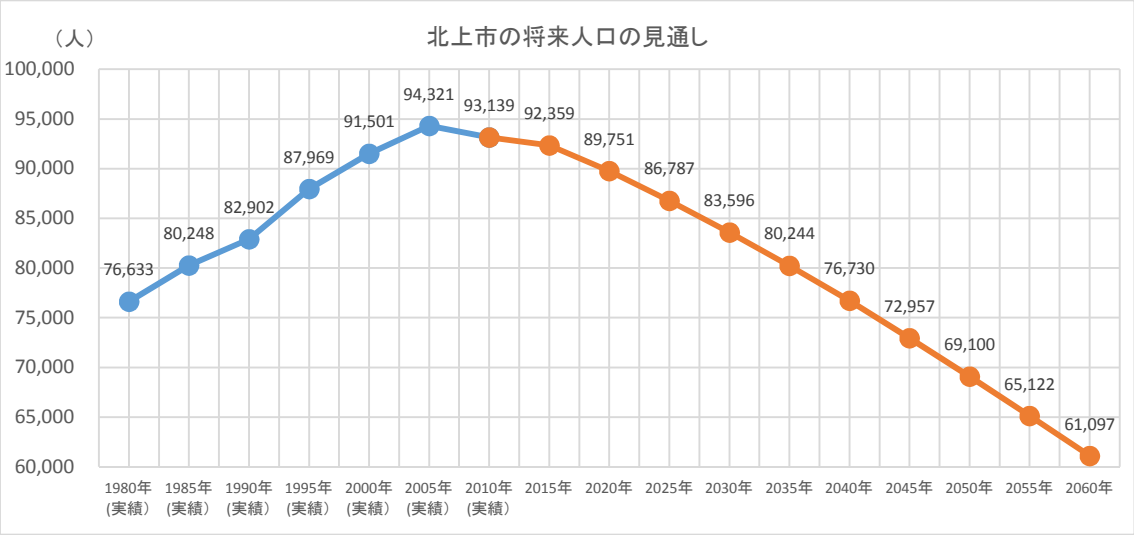


出典：国勢調査

（２）将来人口

①総人口の推移

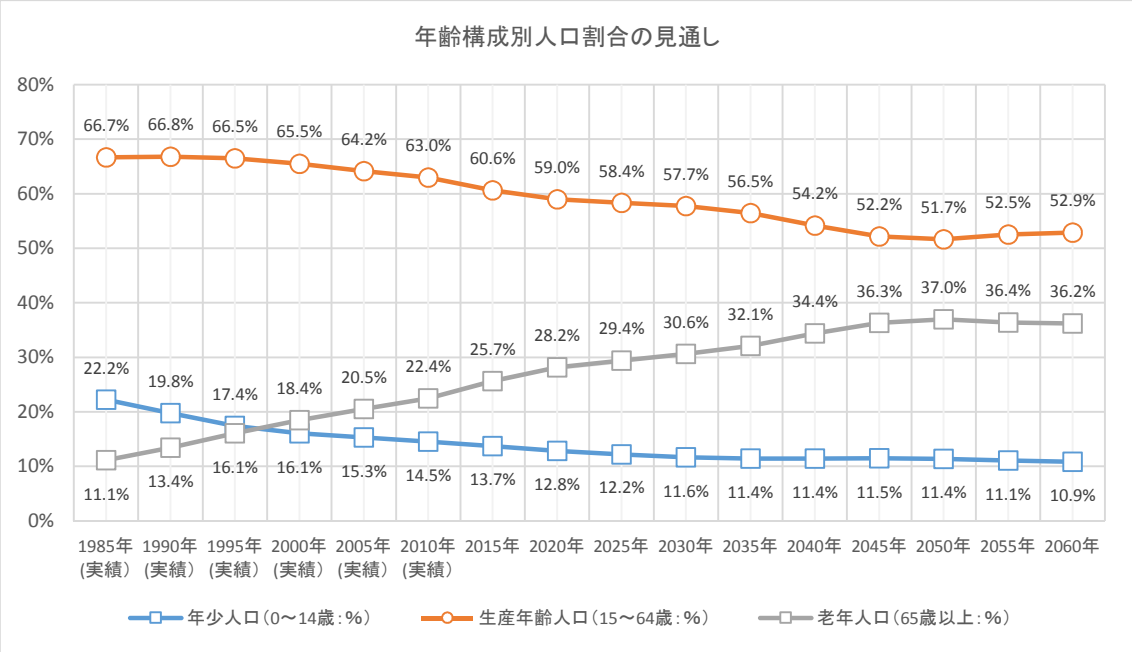
国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による人口推計では、今後は人口減少が続き、2060 年（平成 72 年）には 61,097 人（平成 22 年から約 34%減少）になると見込んでいます。



出典：国勢調査（1980～2010 年）

②年齢３区分別人口の推移

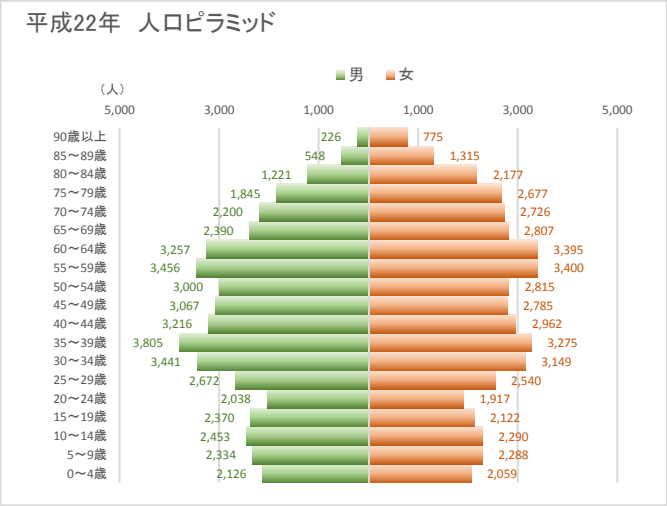
年少人口の割合は緩やかな減少傾向が続くのに対し、老年人口の割合は増加傾向が続き、2040 年（平成 52 年）には市の全体人口の 3 分の 1 以上になるが、2050 年（平成 62 年）以降は老年人口の割合が減少すると見込んでいます。



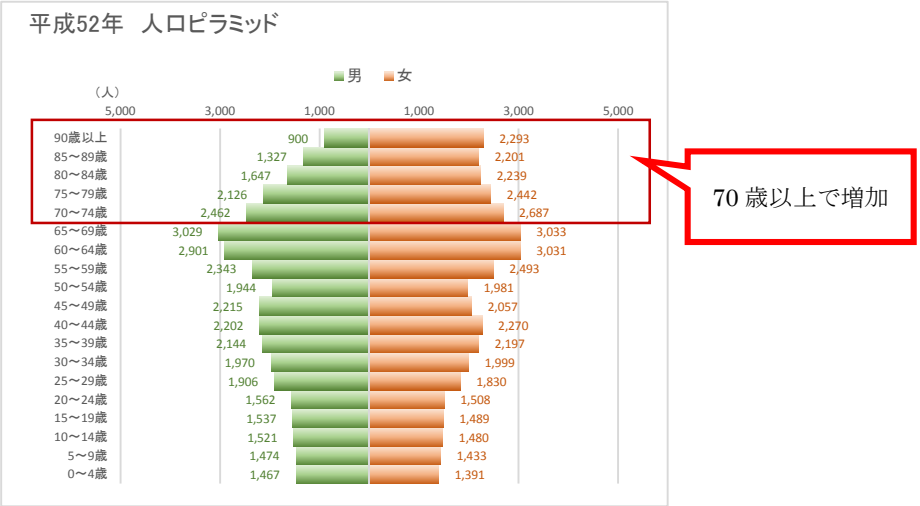
出典：国勢調査（1980～2010 年）

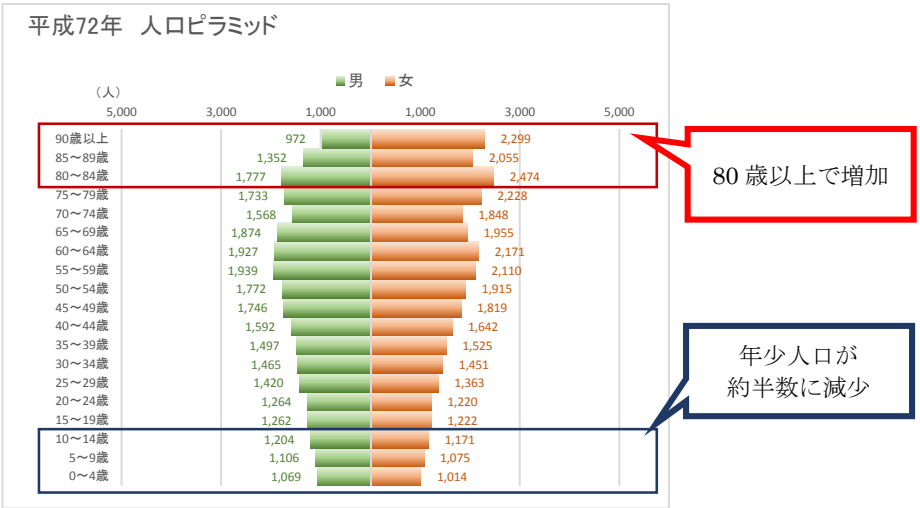
③人口ピラミッドの推移

男女別 5 歳階級別でみると、平成 22 年から平成 52 年では 70 歳以上で増加し、平成 52 年から平成 72 年では 80 歳以上が増加すると見込んでいます。また、年少人口（0～14 歳）は平成 22 年から平成 72 年にかけて約半数まで減少すると見込んでいます。



出典：国勢調査



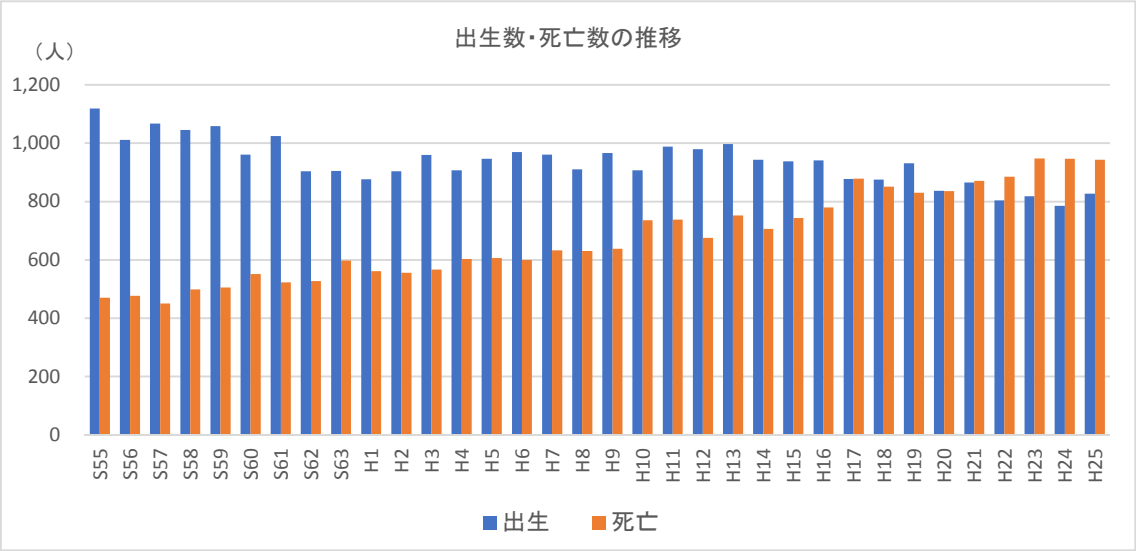


２． 自然増減

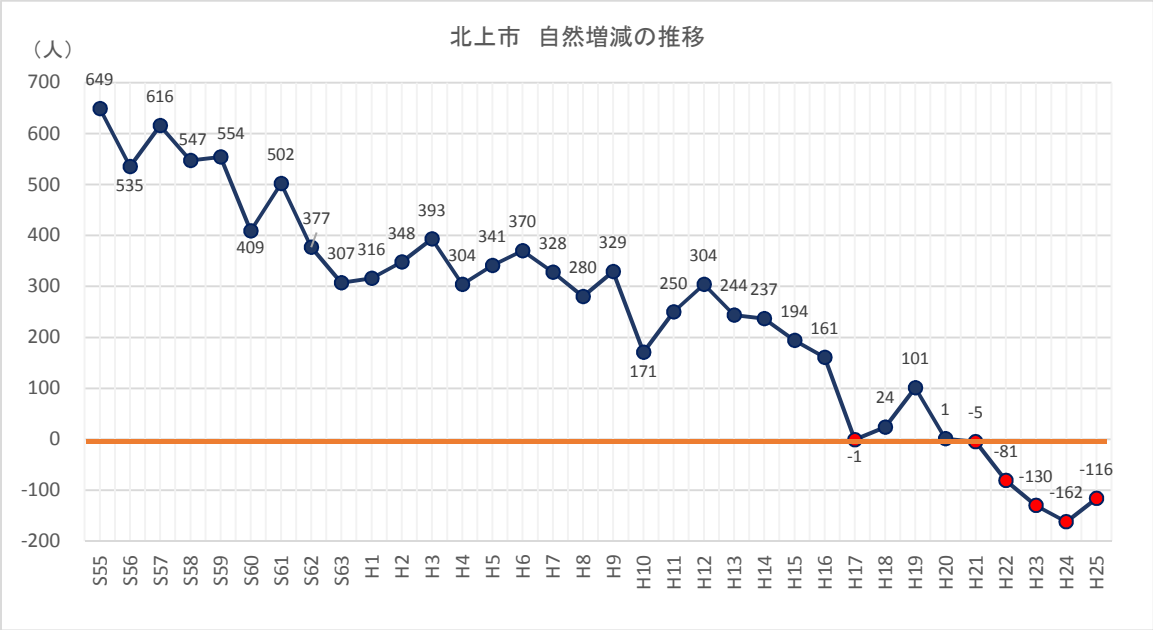
（１）出生数・死亡数

北上市の出生数は緩やかな減少傾向にあるのに対して、死亡数は増加傾向にあり、平成25年の死亡数は昭和55年の約2倍となっています。

総人口の増加が続いた平成20年までは、出生数が死亡数を上回る自然増の傾向が続いていましたが、平成21年以降は自然減に転じています。

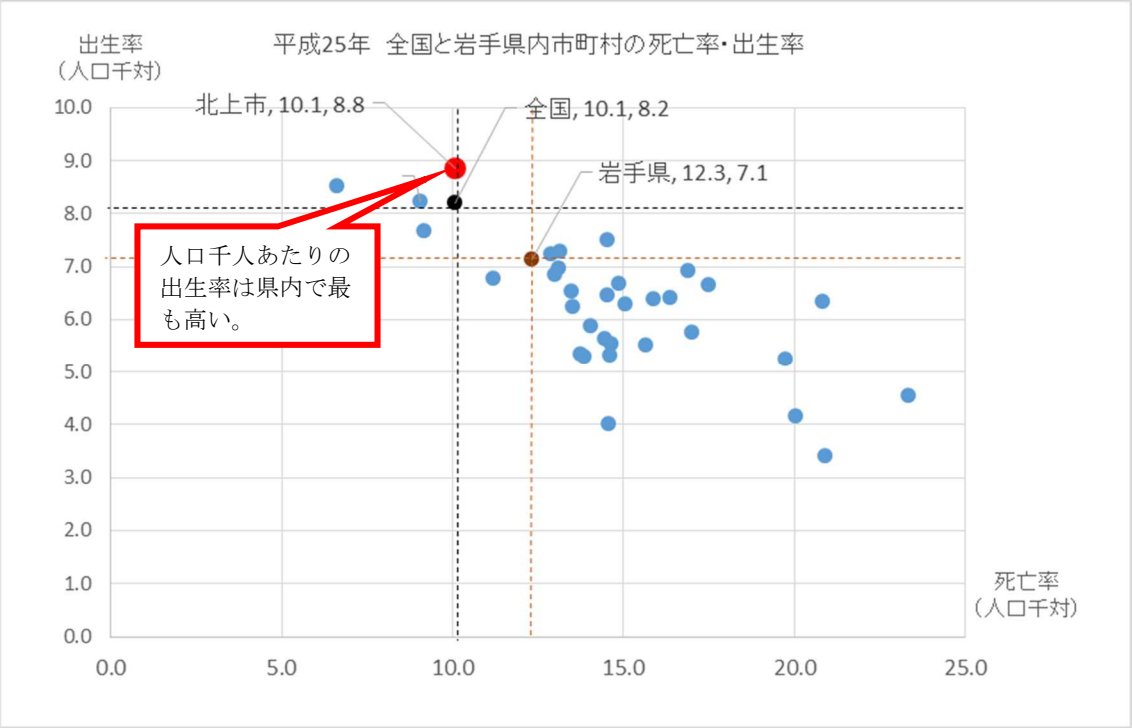


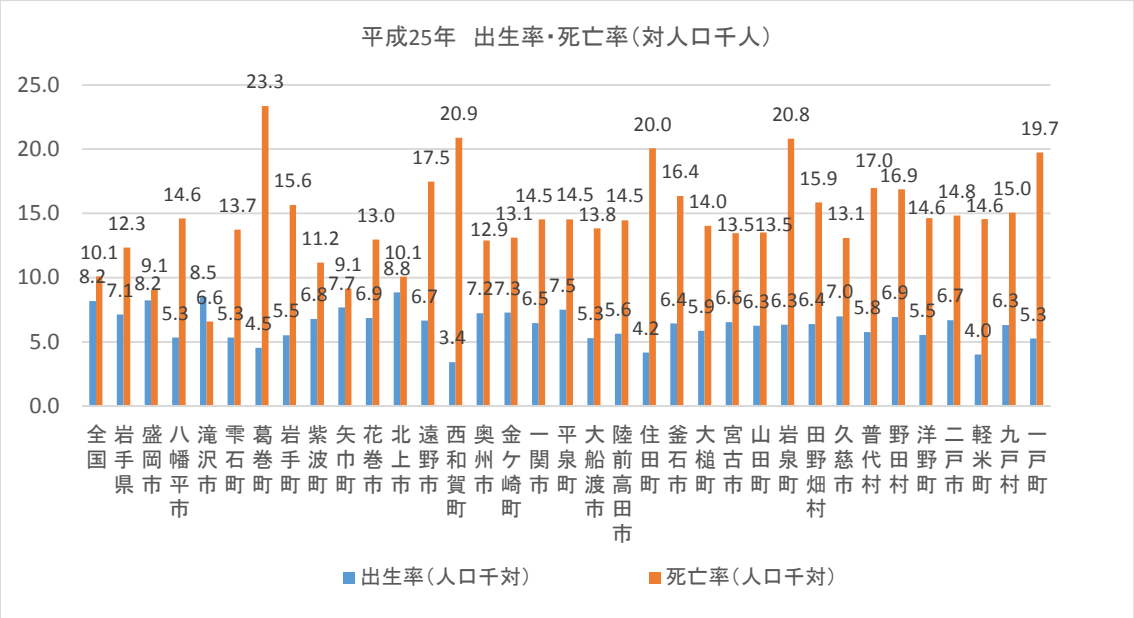
出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」



出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」

平成 25 年の全国、岩手県、北上市及び県内市町村の人口千人あたりの出生率・死亡率をみると、北上市の出生率（8.8%）は全国（8.2%）を上回り、岩手県や県内市町村と比べて高い値となっています。一方、北上市の死亡率（10.1%）は全国（10.1%）と同じで、岩手県や県内市町村と比べて低い値となっています。



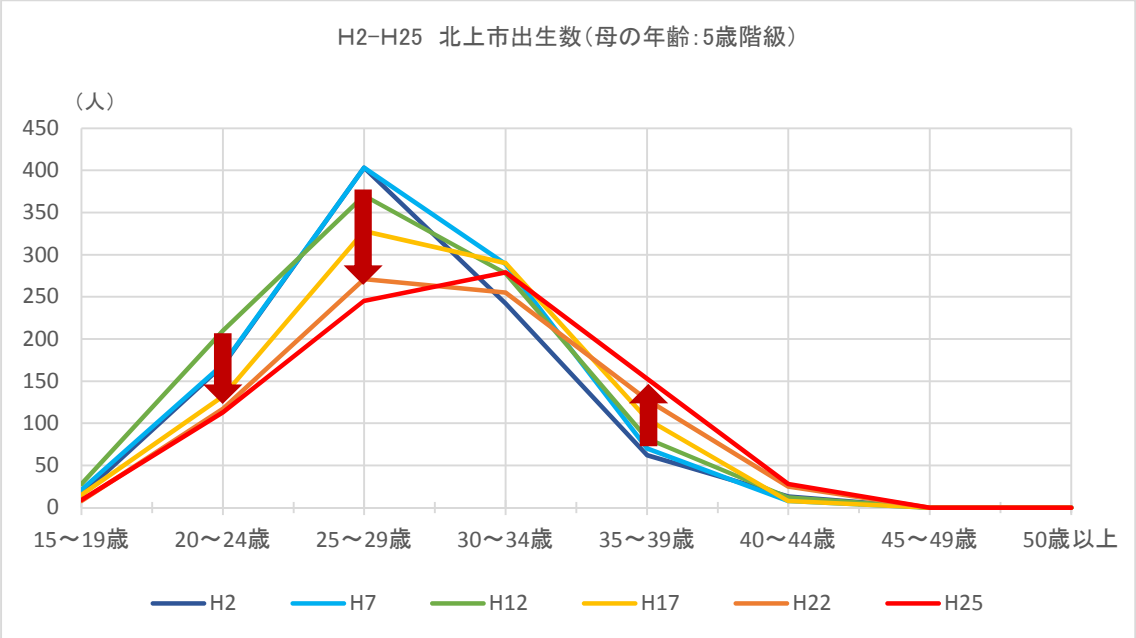


出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」

①出生数

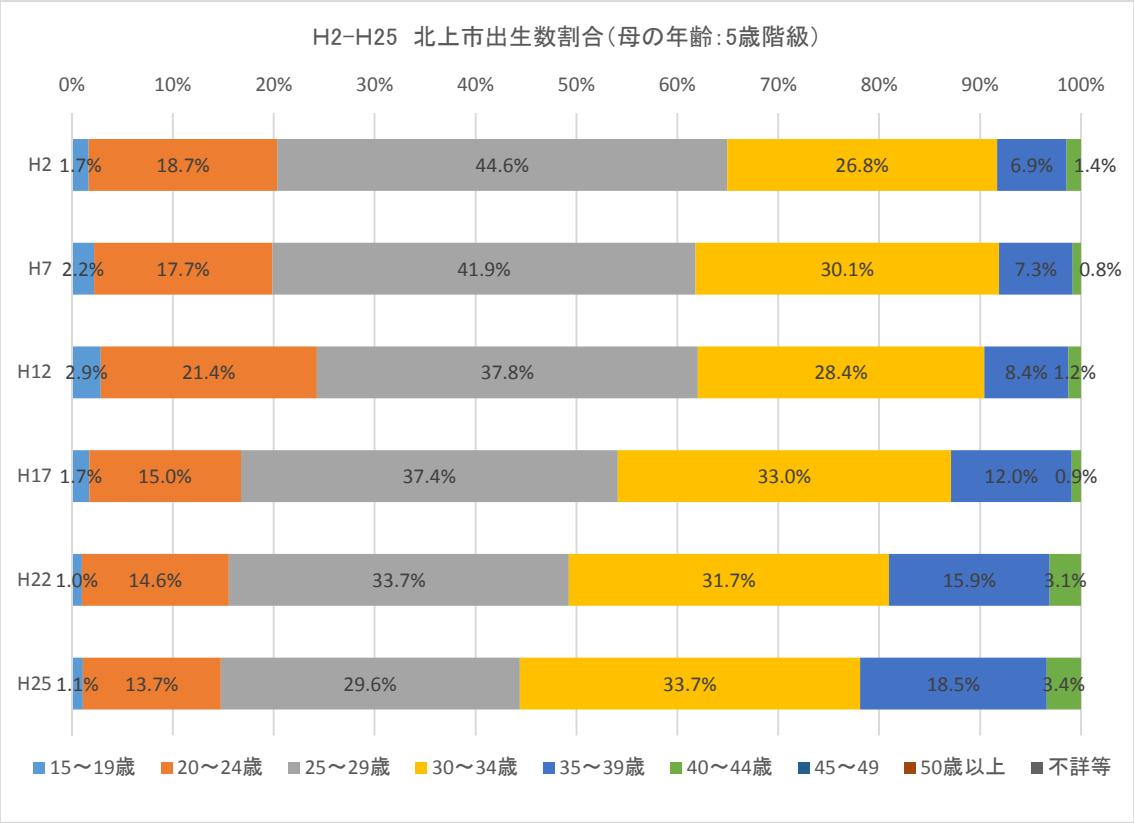
平成 25 年の母親の年齢別（5 歳階級別）の出生数は、「30～34 歳」が最も多く、次いで「25～29 歳」、「35～39 歳」が多くなっています。

平成 2 年から平成 25 年までの 5 年毎の母親の年齢別（5 歳階級別）の出生数を比較すると、「20～24 歳」及び「25～29 歳」の出生数が減少傾向にあり、特に「25～29 歳」では平成 2 年の約 400 人から平成 25 年の約 250 人まで大幅に減少しています。一方、「35～39 歳」の出生数は、平成 2 年の約 50 人から平成 25 年の約 150 人まで約 3 倍に増加しています。



出典：岩手県保健福祉年報（人口動態編）

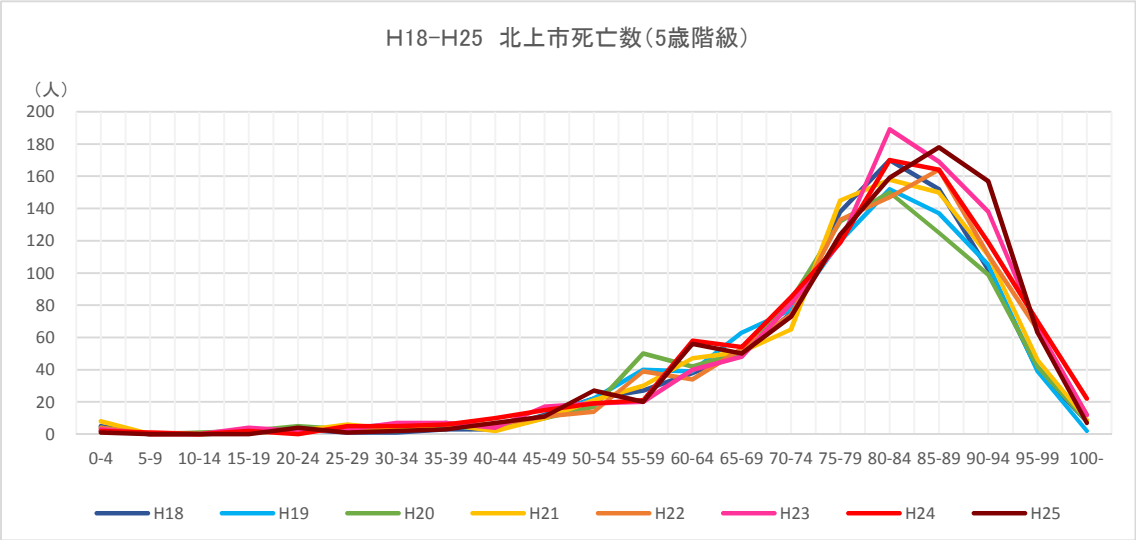
平成 2 年から平成 25 年の母の年齢別（5 歳階級別）の出生数は、平成 2 年には「25～29 歳」の母親の出生数が全体の約 45%を占めていましたが、平成 25 年には約 30%まで減少しています。一方、平成 2 年には「30～34 歳」の母親の出生数は全体の約 27%でしたが、平成 25 年には約 34%まで増加しています。さらに、平成 2 年では「35～39 歳」の母親の出生数は全体の約 7%でしたが、平成 25 年には約 19%まで増加しています。



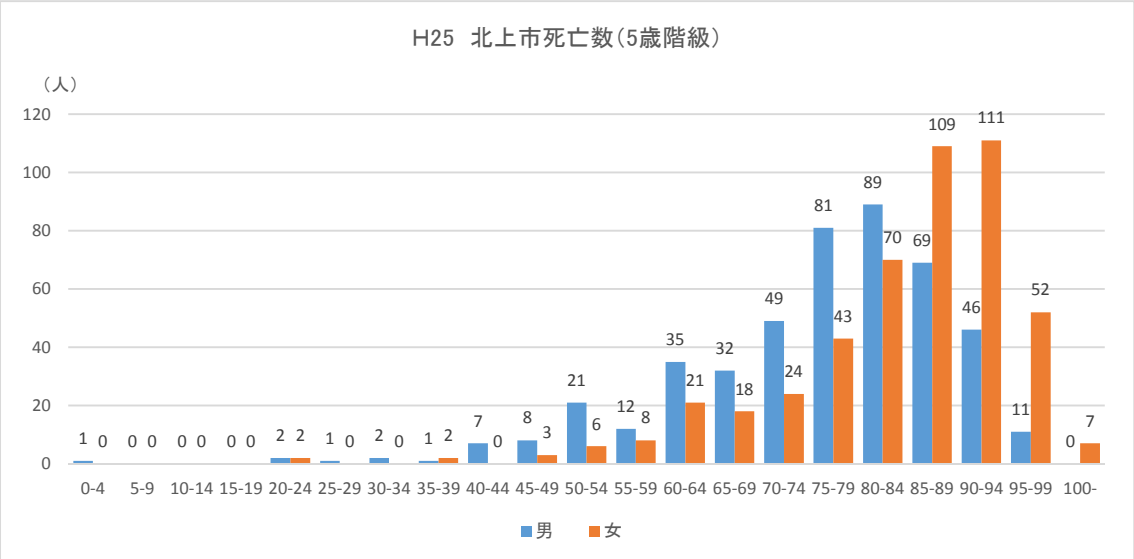
出典：岩手県保健福祉年報（人口動態編）

②死亡数

平成 18 年から平成 25 年の 5 歳階級別の死亡数では、「80～84 歳」や「85～89 歳」の死亡数が多くなっています。平成 25 年の男女別 5 歳階級別の死亡数では、男性では「80～84 歳」、女性では「90～94 歳」の死亡数が最も多くなっています。

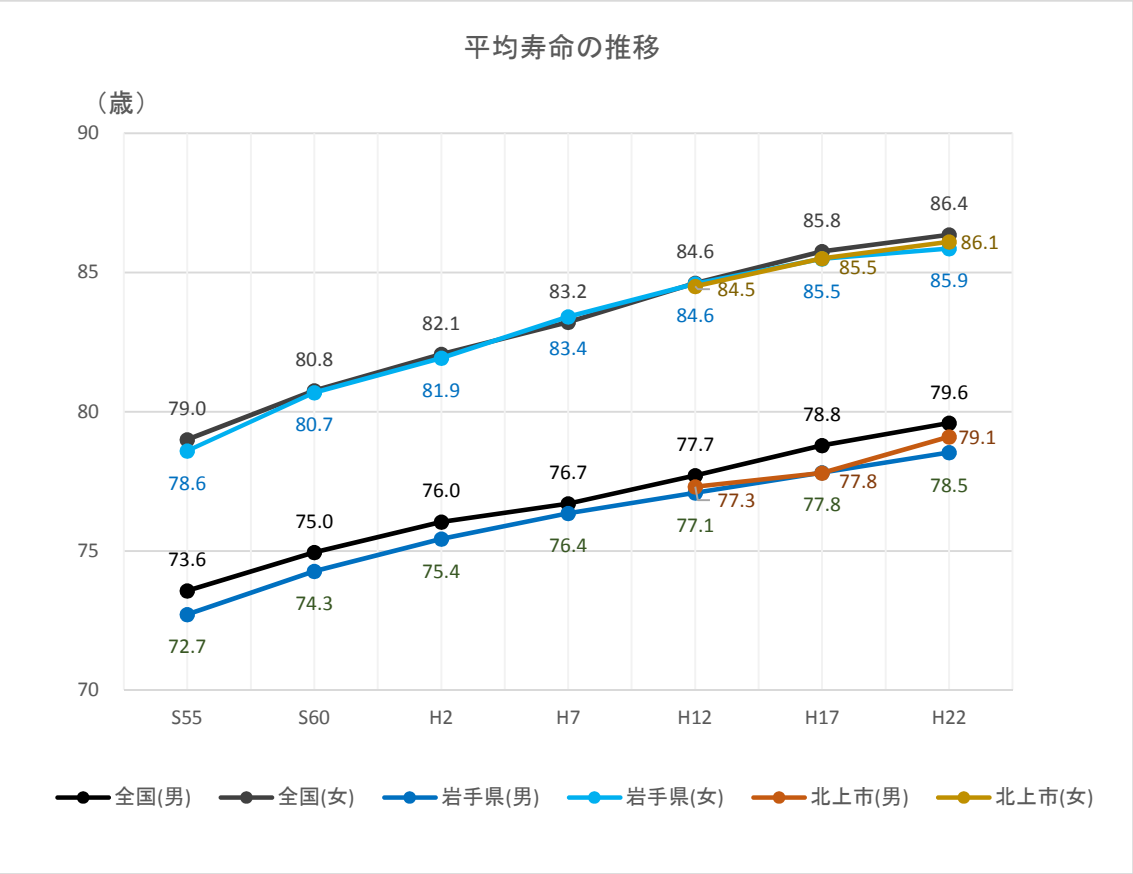


出典：岩手県保健福祉年報（人口動態編）



出典：岩手県保健福祉年報（人口動態編）

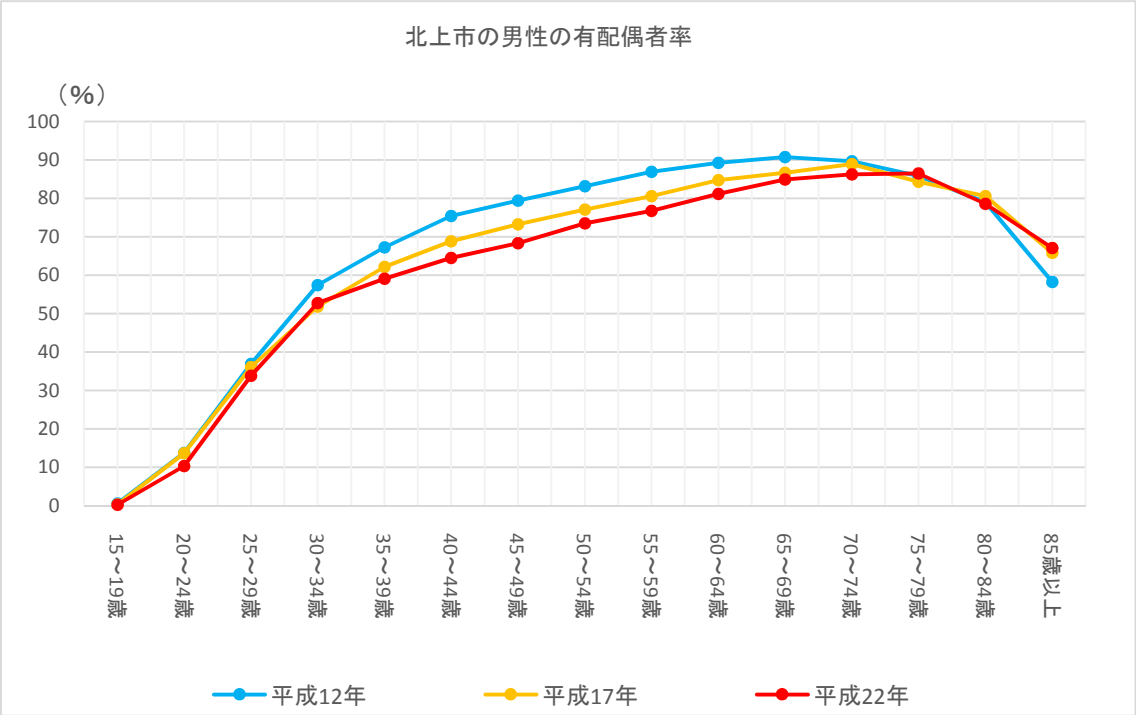
昭和 55 年から平成 22 年の平均寿命は、全国、岩手県、北上市ともに一貫して上昇傾向にあります。

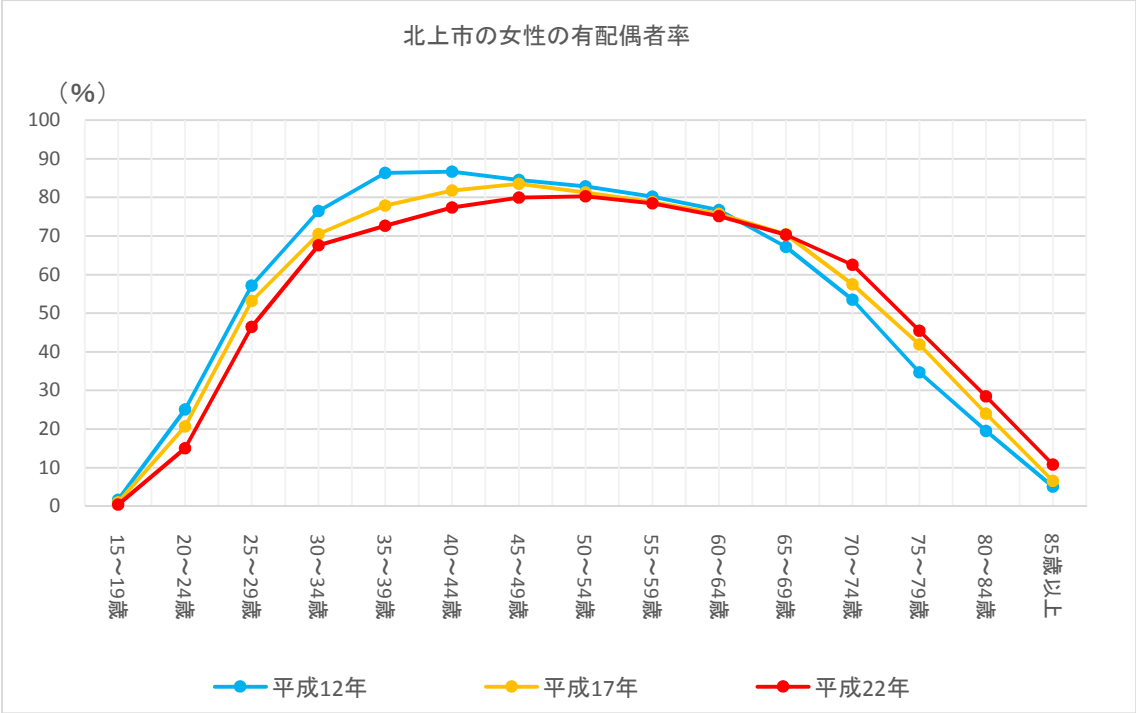


出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」

（２）結婚（有配偶者率）

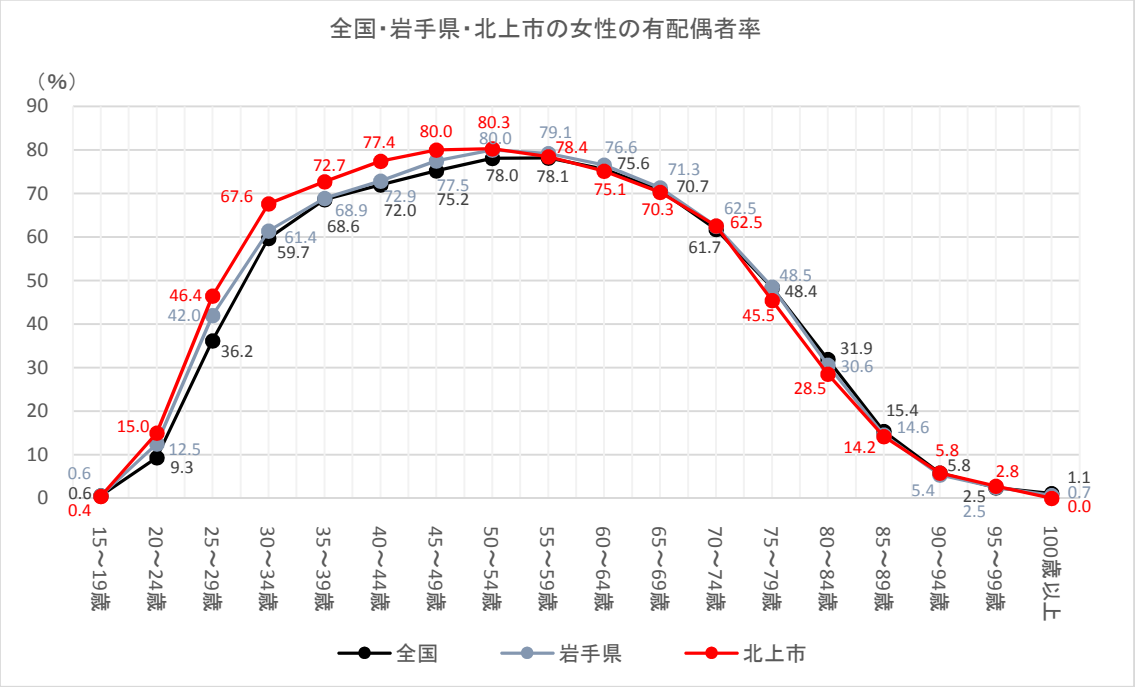
平成 12 年から平成 22 年の 5 歳階級別の有配偶者率は、男性においてはほぼ全ての年代で、女性においては 20～40 歳代で減少傾向にあります。





出典：国勢調査

平成 22 年の 20～40 歳代女性の有配偶者率は、全国及び岩手県に比べて高くなっています。



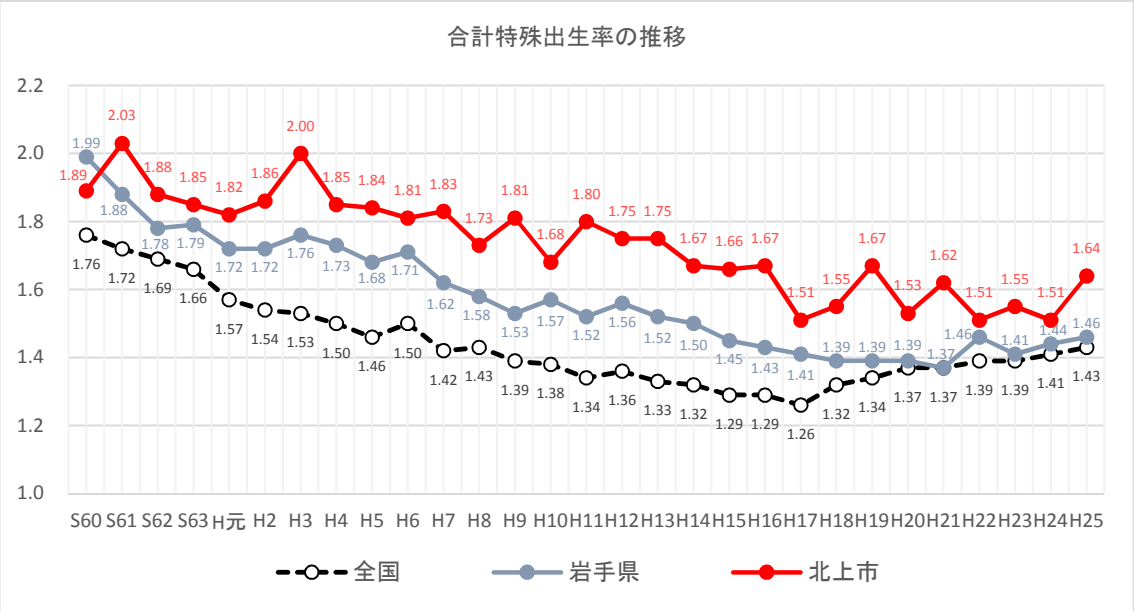
出典：国勢調査（平成 22 年）

（３） 合計特殊出生率

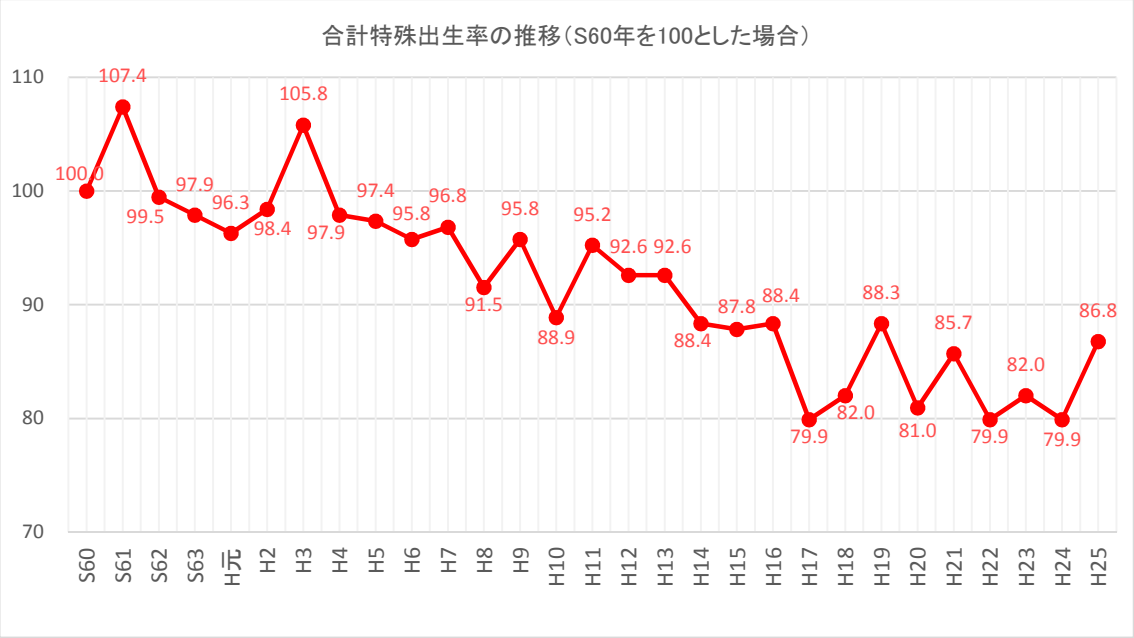
昭和 60 年～平成 25 年の合計特殊出生率の最大値は昭和 61 年の 2.03 です。

合計特殊出生率は毎年増減を繰り返しながら推移しており、長いスパンでみると緩やかな減少傾向が続いていますが、全国及び岩手県に比べて高い水準を保っています。

※合計特殊出生率：1 人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値。
15～49 歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。

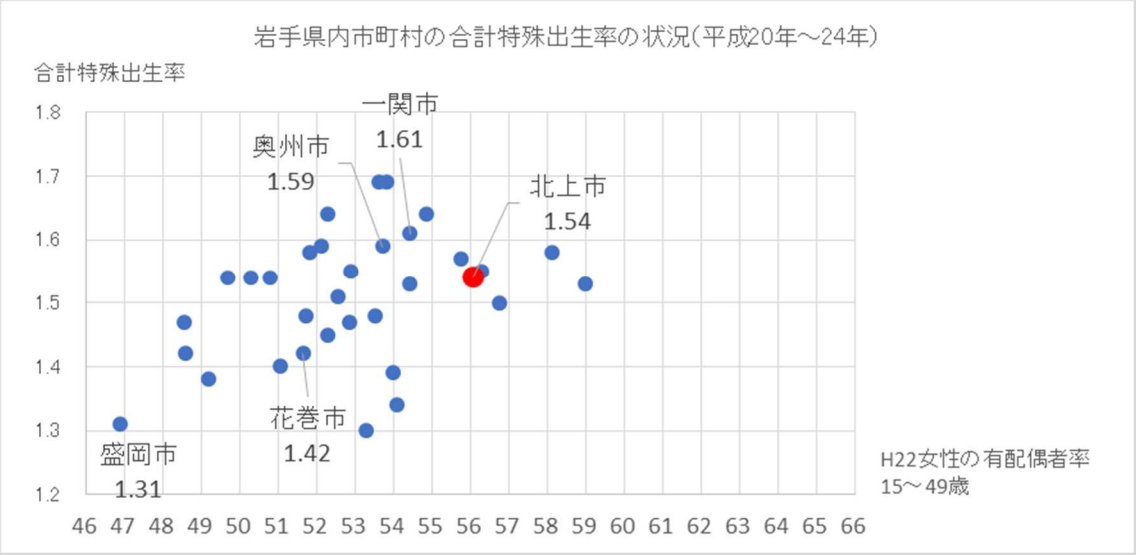


出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」

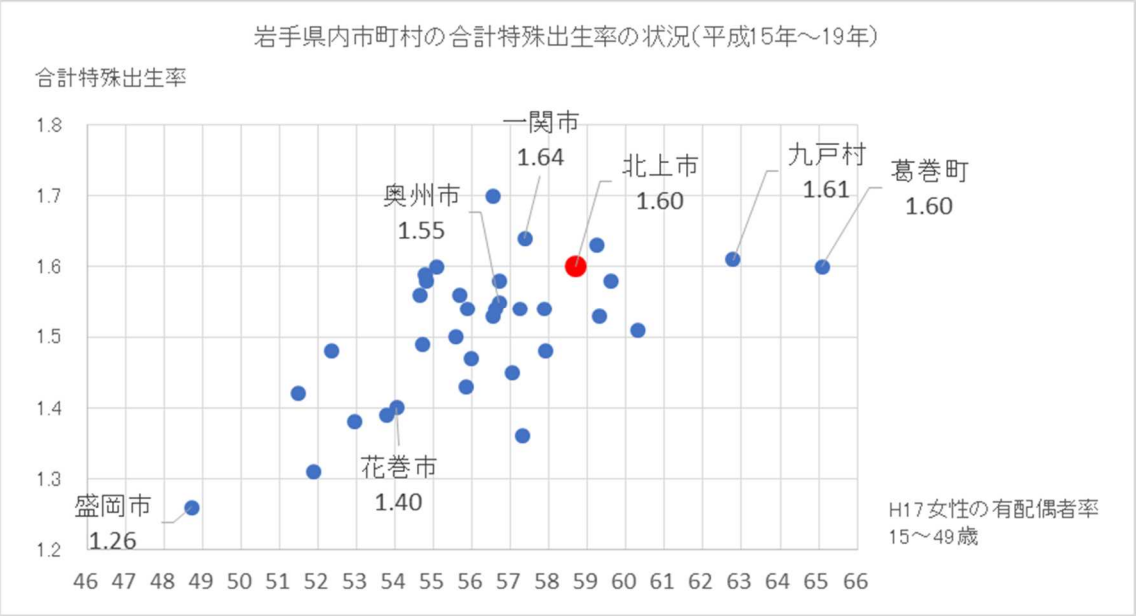


出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」

女性の有配偶率別の合計特殊出生率の状況を比較すると、多くの市町村において平成20～24 年は平成 15 年～19 年に比べて有配偶率、合計特殊出生率ともに減少傾向にあることが分かります。



出典：平成 20～24 年　人口動態保健所・市区町村別統計、国勢調査

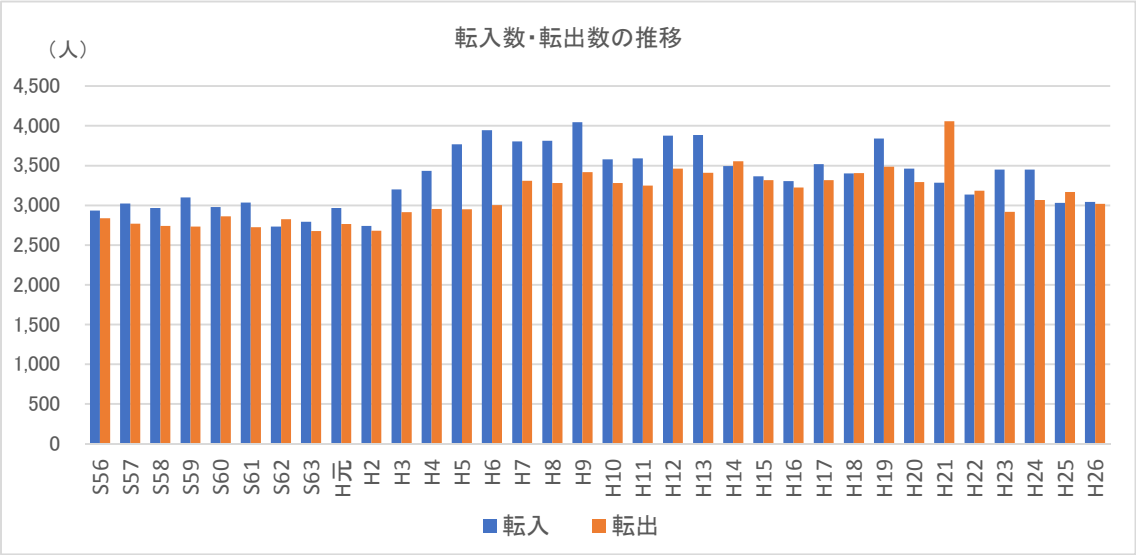


出典：平成 15～19 年　人口動態保健所・市区町村別統計、国勢調査

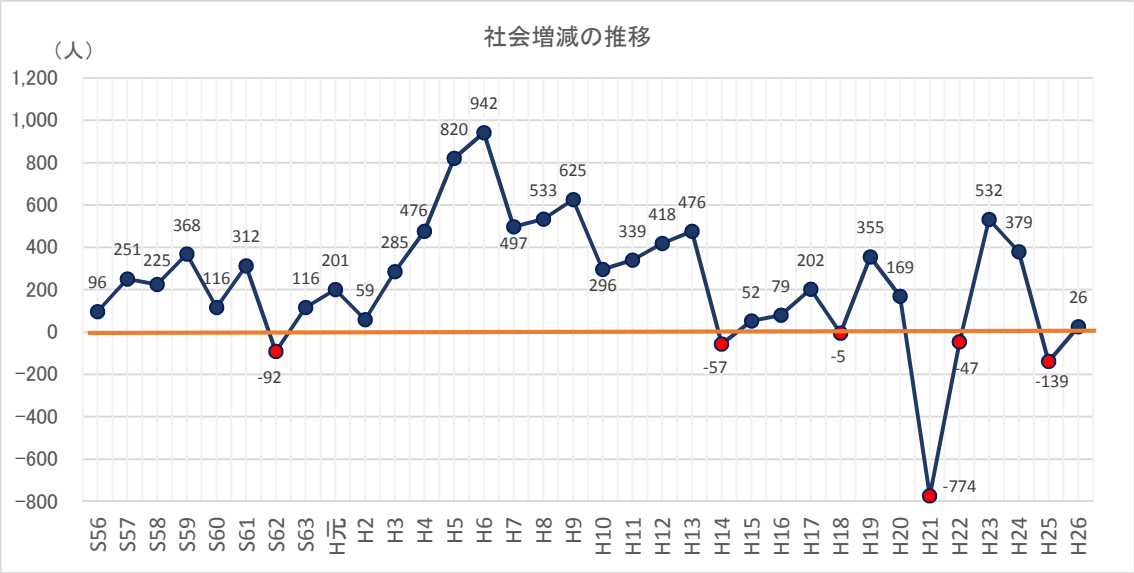
３． 社会増減

（１）転入者数・転出者数

平成 20 年までは概ね転入超過の状態が続いていましたが、平成 21 年に 774 人の転出超過に転じ、以降は転入超過と転出超過を繰り返しています。



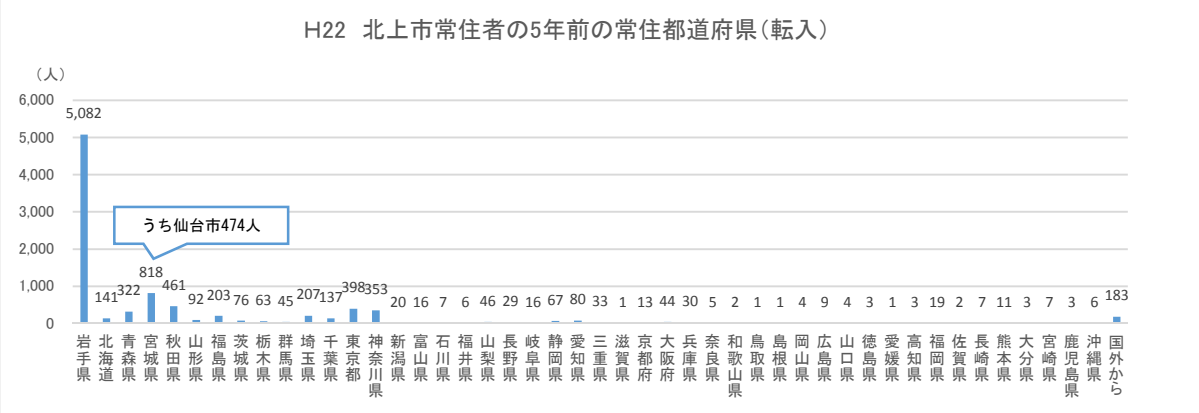
出典：北上市統計データ

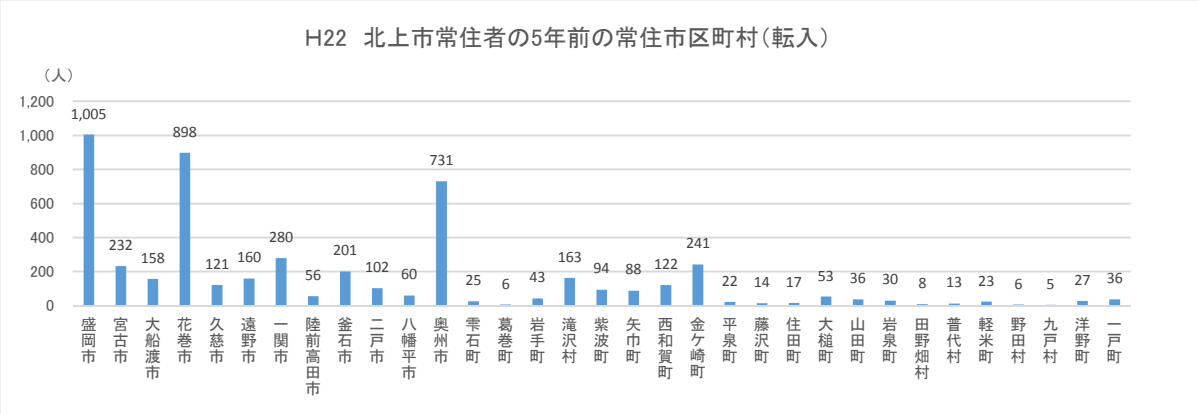


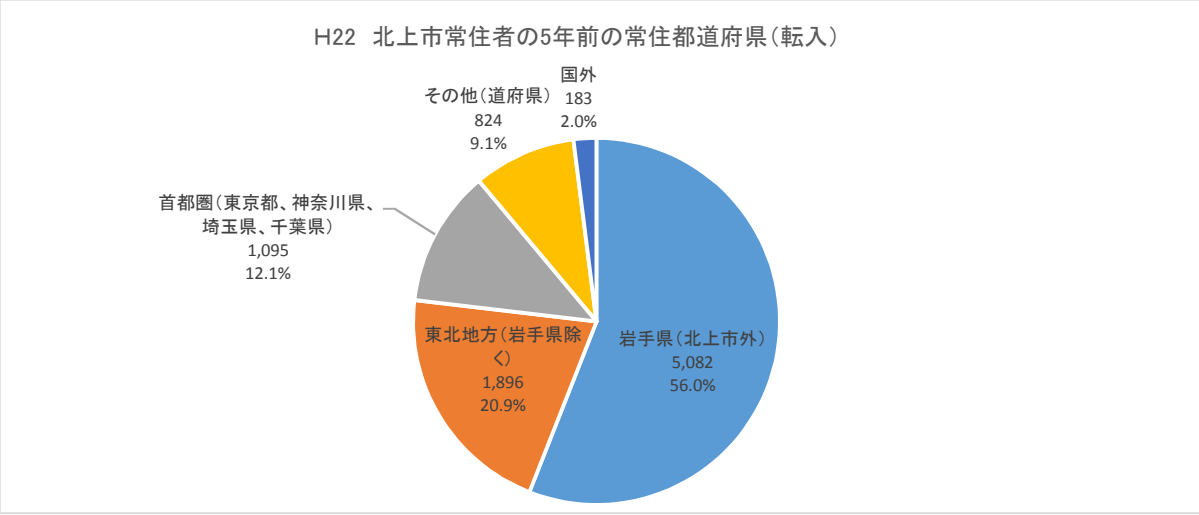
出典：北上市統計データ

①転入者数

平成 17 年から平成 22 年の転入者の半分以上が県内市町村から転入しており、特に盛岡市、花巻市、奥州市からの転入者が多くなっています。県外からは仙台市を含む宮城県からの転入者が多くなっています。

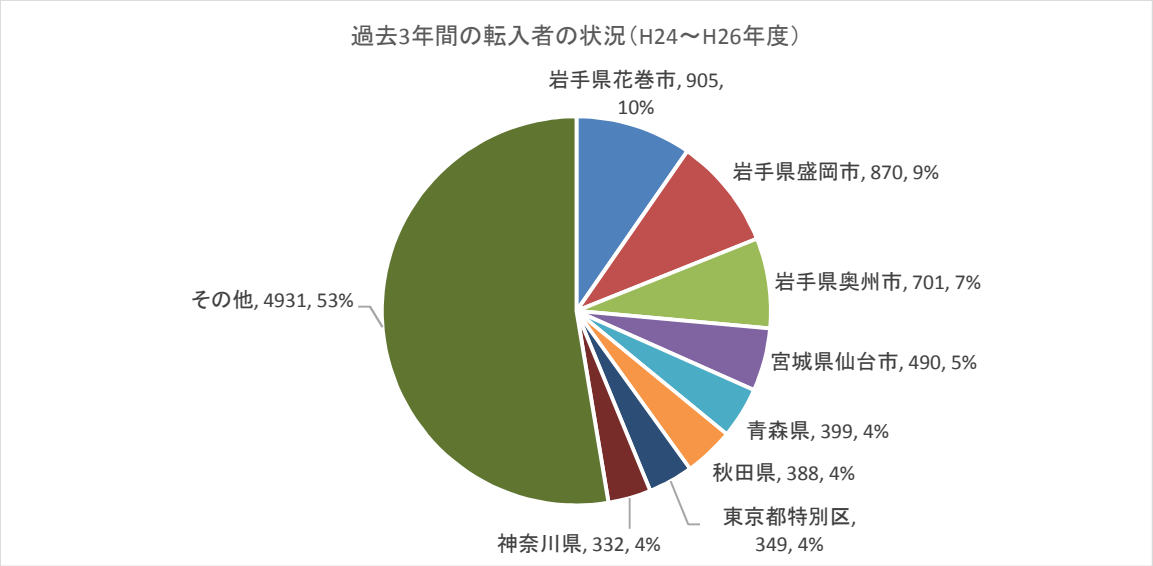


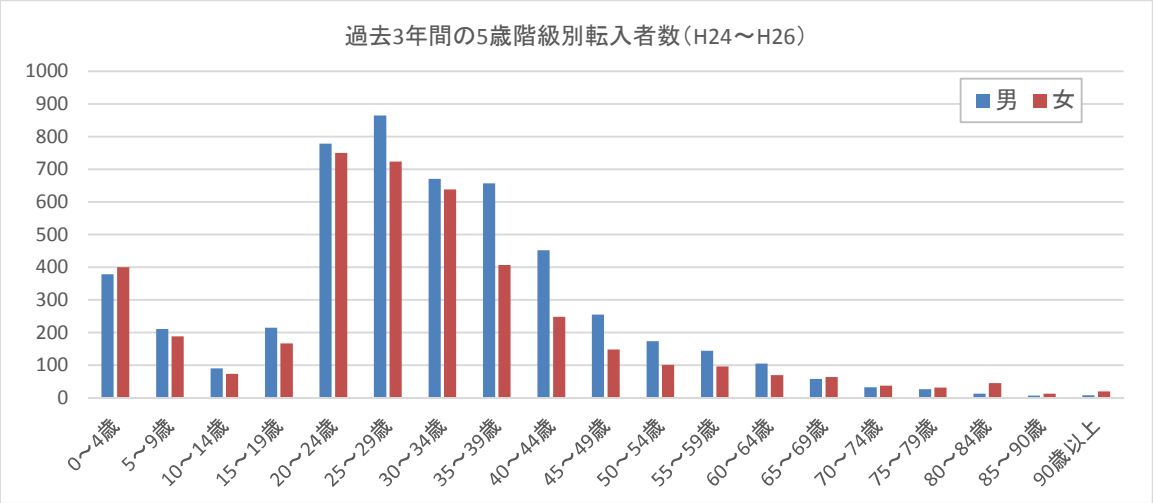


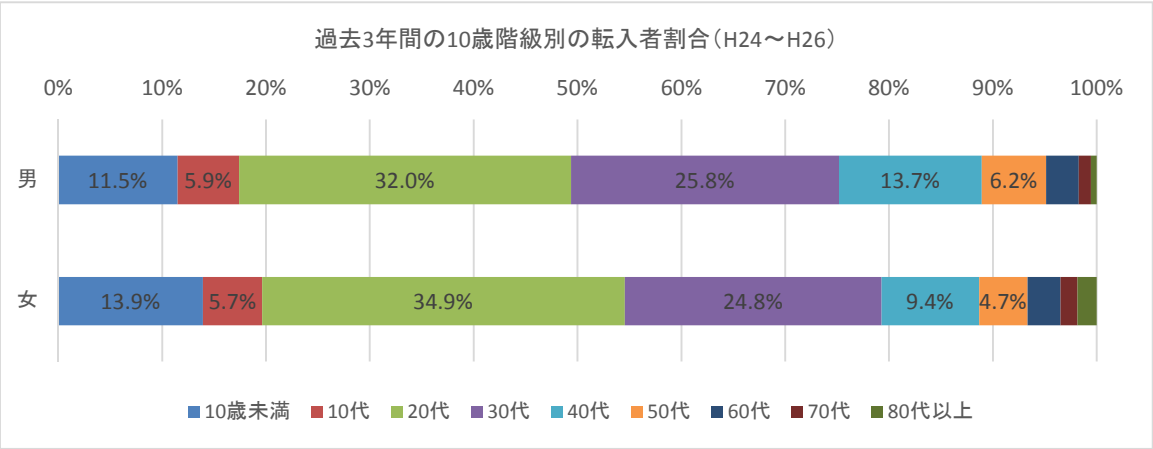


出典：国勢調査

過去３年間の転入者数は、「花巻市」からが最も多く、次いで「盛岡市」、「奥州市」、「仙台市」という順に多くなっています。また、男女ともに「20 代」の転入者が最も多く、次いで「30 代」が多くなっています。



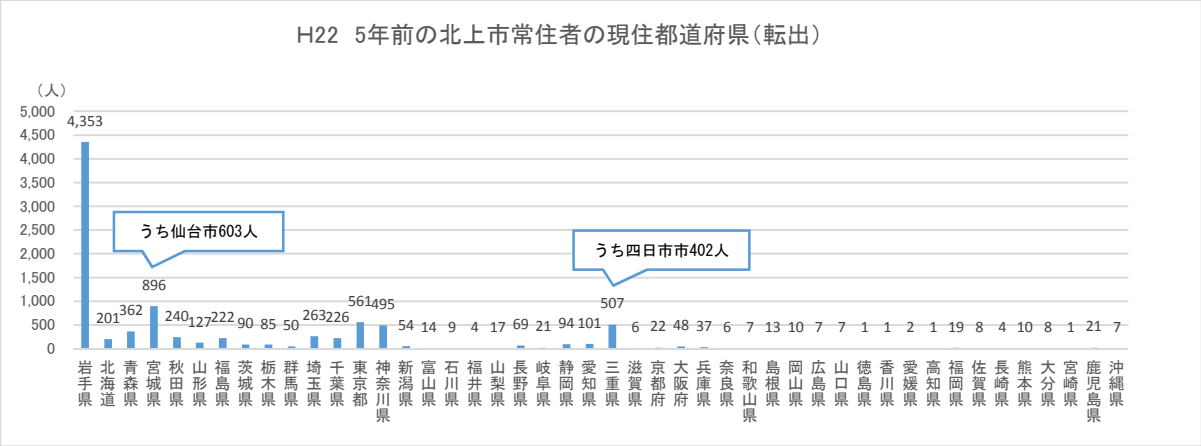


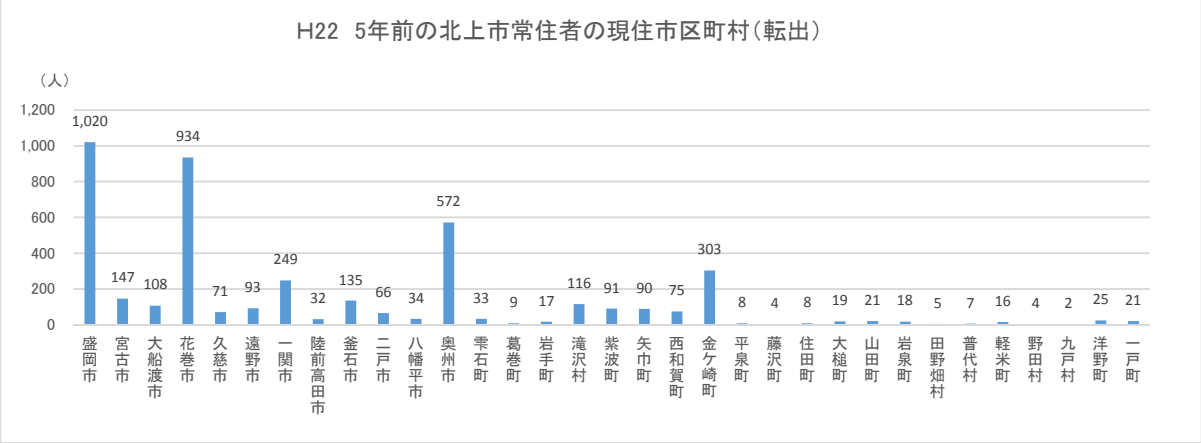


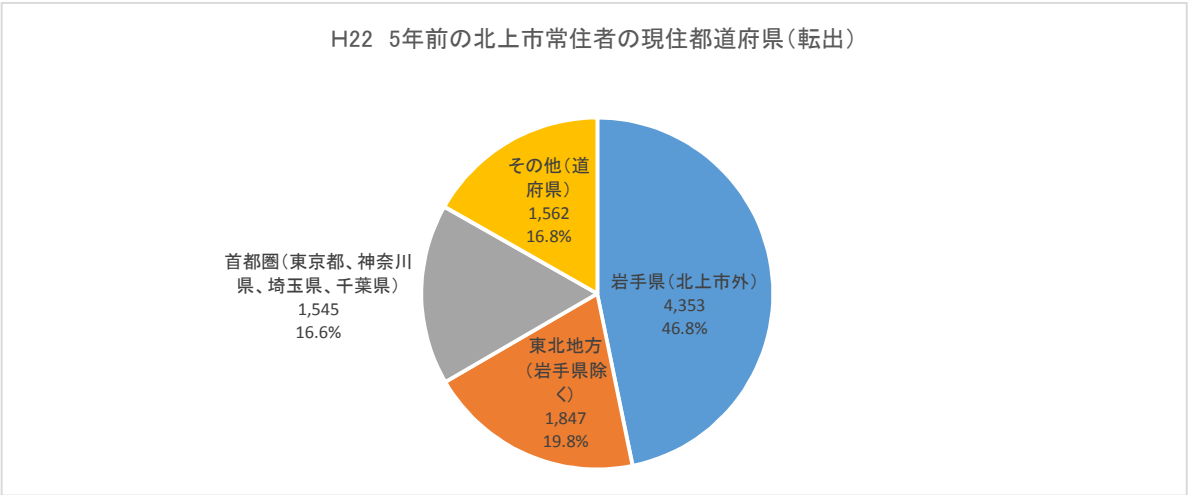
出典：北上市住民基本台帳（転出入データ）

②転出者数

平成 17 年から平成 22 年の転出者の約半分が県内市町村へと転出しており、特に盛岡市、花巻市、奥州市、金ケ崎町への転出者が多くなっています。県外へは仙台市を含む宮城県のほか、首都圏や三重県（四日市市）への転出者も多くなっています。

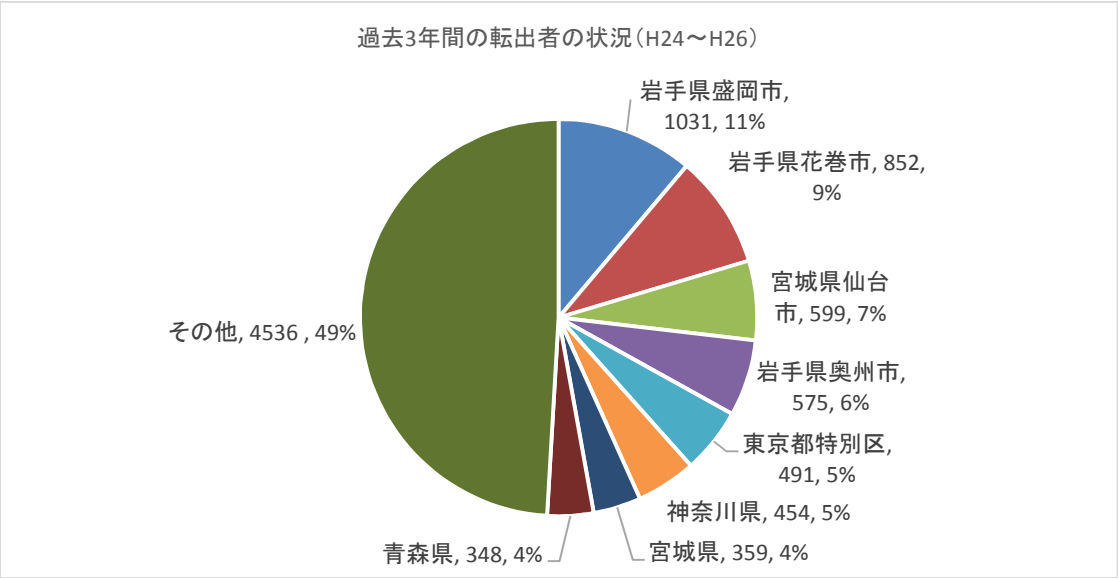


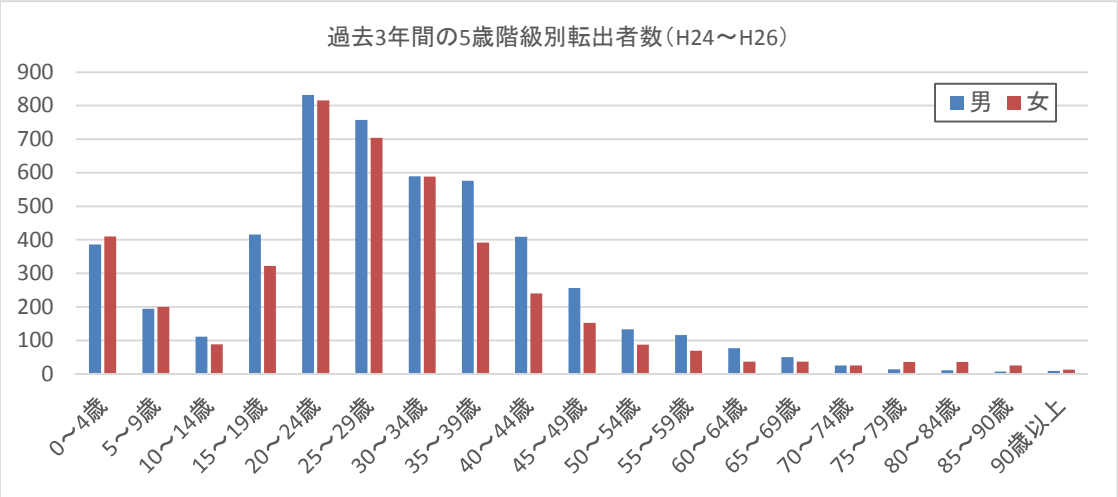


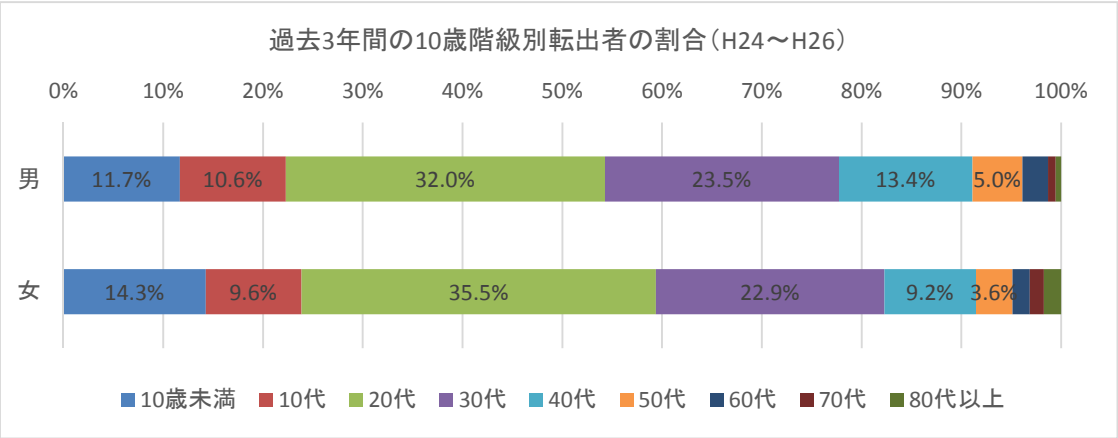


出典：国勢調査

過去 3 年間の転出者数は、「盛岡市」が最も多く、次いで「花巻市」、「仙台市」、「奥州市」という順になっています。また、男女ともに「20 代」の転出者が最も多く、次いで「30 代」が多くなっています。





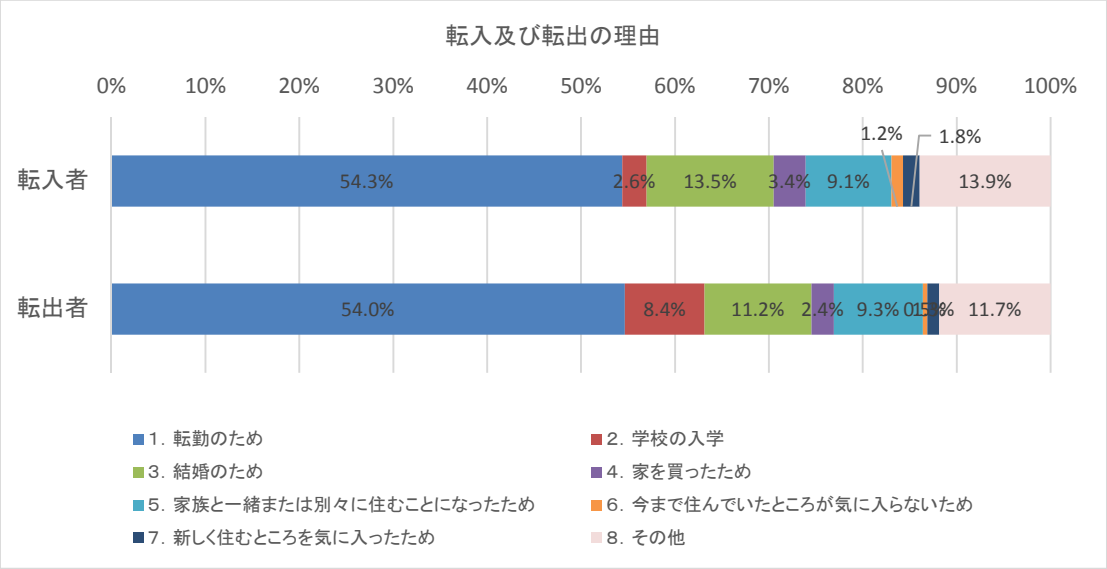


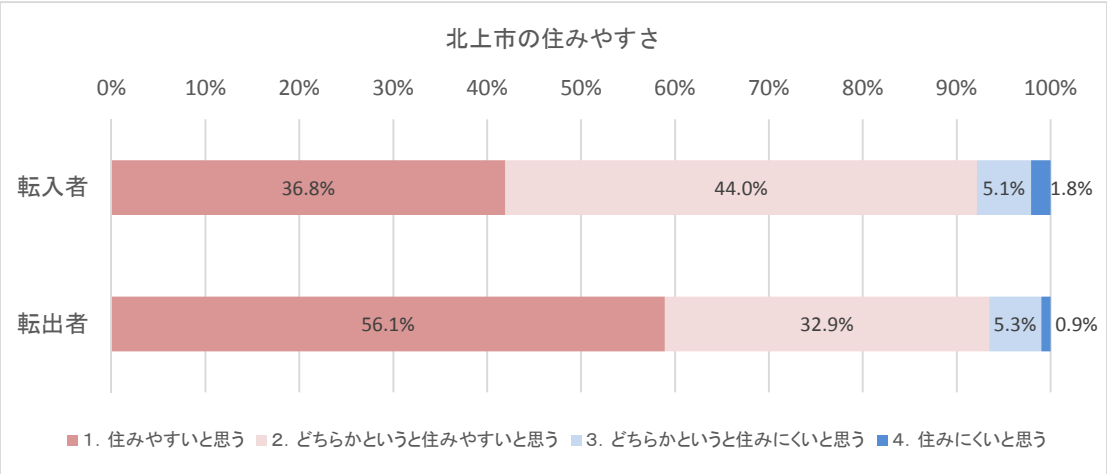
出典：北上市住民基本台帳（転出入データ）

③転入・転出の要因

住民異動届アンケート調査によると、転入・転出理由はともに「転勤のため」が最も多く、約半分を占めています。次いで「結婚のため」や「家族と一緒または別々に住むことになったため」が多くとなっています。

また、北上市の住みやすさについては転出者においても「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と答える人が約 90%と多くなっています。





出典：北上市住民異動届アンケート調査（2014 年 7 月～2015 年 3 月）

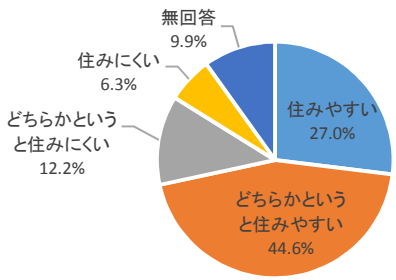
市内の高校生を対象に実施した「まちづくり市民アンケート調査（平成 20 年度）」によると、北上市を「住みやすい」と感じる割合は 71.6%と高くなっているものの、これからも北上市に「住み続けたい」と思う割合は 59.2%となっています。

住みたくない理由としては、「市内に働きたい場所がない」が 45.1%と最も多く、次いで「通勤、通学、日常の買い物が不便」や「生活環境がよくない」と多くなっています。

問　現在の北上市の「住みやすさ」について、どのように感じていますか。

選択肢	回答数(人)	割合(%)
住みやすい	267	27.0
どちらかというと住みやすい	442	44.6
どちらかというと住みにくい	121	12.2
住みにくい	62	6.3
無回答	98	9.9

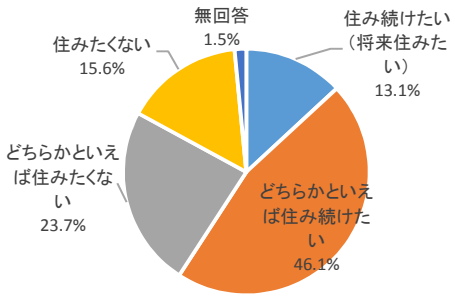
有効票数＝990



問　あなたは、これからも北上市に住み続けたいと思いますか。

選択肢	回答数(人)	割合(%)
住み続けたい（将来住みたい）	130	13.1
どちらかといえば住み続けたい	456	46.1
どちらかといえば住みたくない	235	23.7
住みたくない	154	15.6
無回答	15	1.5

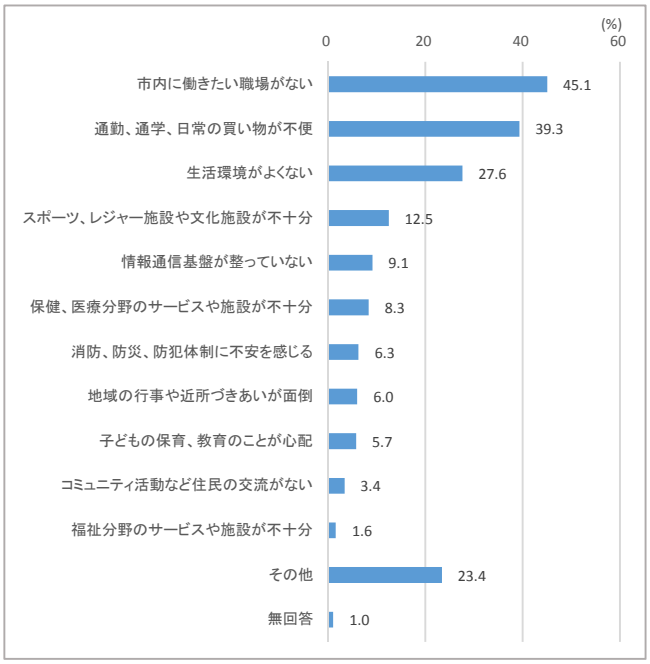
有効票数＝990



問　住みたくない理由は何ですか。（3つ以内）

選択肢	回答数(人)	割合(%)
生活環境がよくない	106	27.6
通勤、通学、日常の買い物が不便	151	39.3
消防、防災、防犯体制に不安を感じる	24	6.3
情報通信基盤が整っていない	35	9.1
保健、医療分野のサービスや施設が不十分	32	8.3
福祉分野のサービスや施設が不十分	6	1.6
スポーツ、レジャー施設や文化施設が不十分	48	12.5
市内に働きたい職場がない	173	45.1
子どもの保育、教育のことが心配	22	5.7
地域の行事や近所づきあいが面倒	23	6.0
コミュニティ活動など住民の交流がない	13	3.4
その他	90	23.4
無回答	4	1.0

有効票数＝384

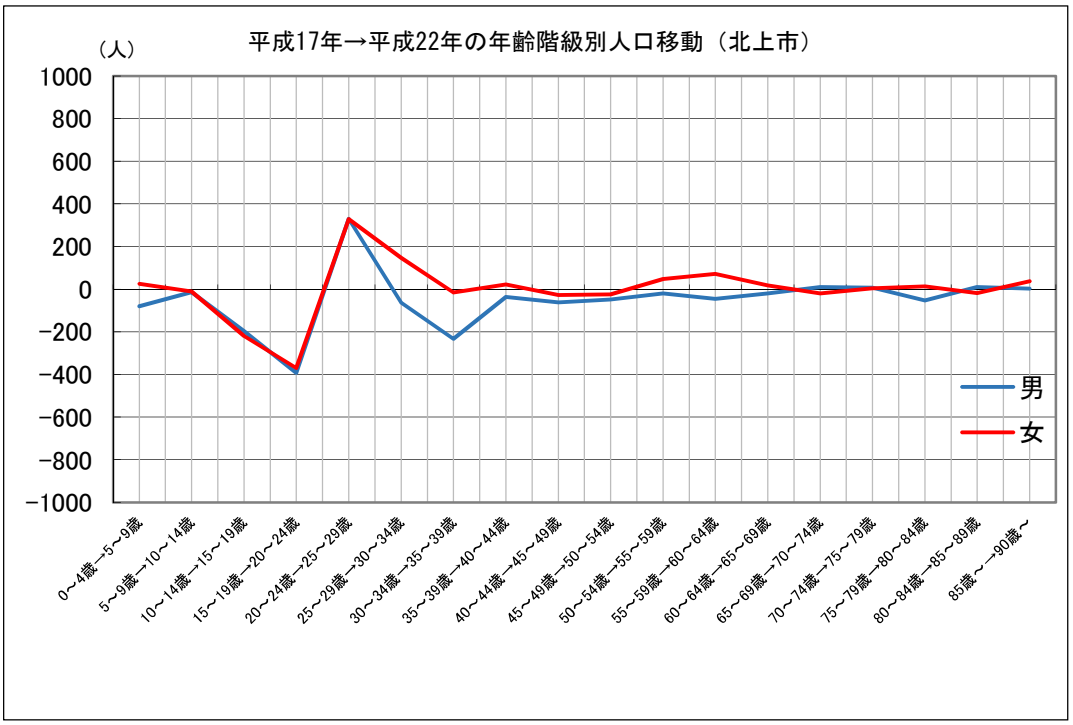


出典：まちづくり市民アンケート調査結果（平成 20 年度）

（２）年齢階級別の人口移動分析

平成 17 年から平成 22 年において、男性では「10～14 歳→15～19 歳」、「15～19 歳→20～24 歳」、「30～34 歳→35～39 歳」の転出超過が、「20～24 歳→25～29 歳」の転入超過が大きくなっています。

女性では、「10～14 歳→15～19 歳」、「15～19 歳→20～24 歳」の転出超過が、「20～24 歳→25～29 歳」の転入超過が大きくなっています。男性と違い、「30～34 歳→35～39 歳」の転出超過は小さくなっています。



出典：国勢調査、都道府県生命表

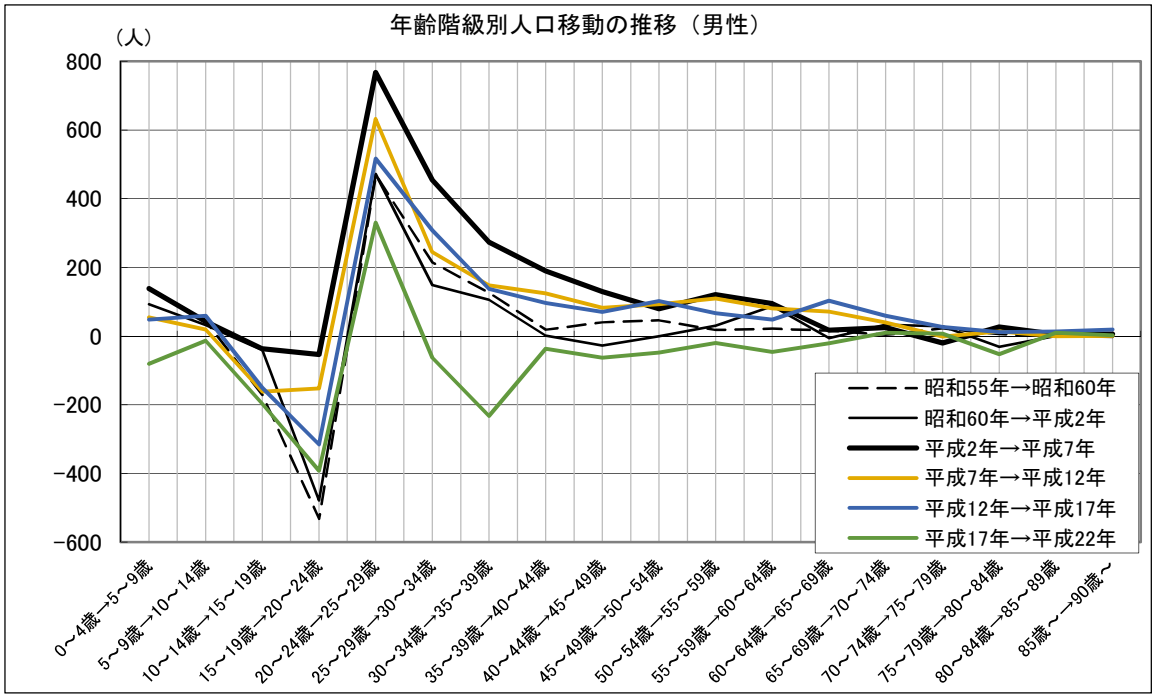
＜15～19 歳から 20～24 歳の転出超過＞

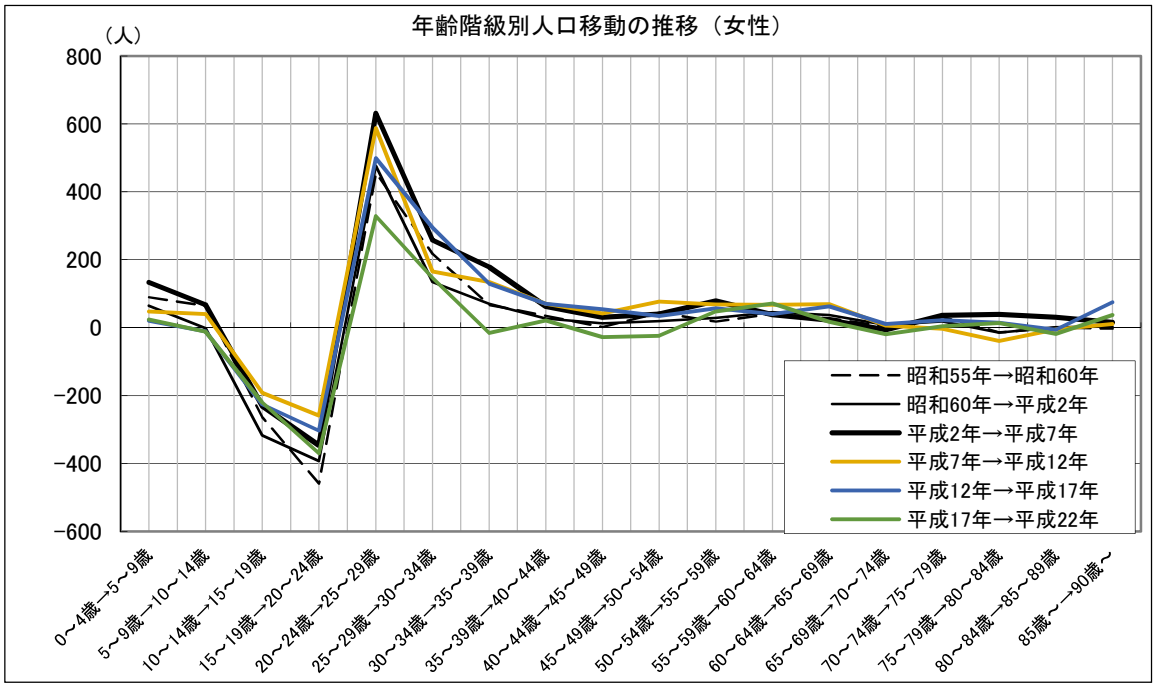
男性では、平成 2 年→平成 7 年で転出超過数が大幅に減少し、一時的に均衡に近づきましたが、平成 7 年以降は再び転出超過数が増加しています。

女性では、平成 2 年→平成 7 年で転出超過数が若干減少しましたが、平成 7 年以降は再び転出超過数が増加しています。

＜20～24 歳から 25～29 歳の転入超過＞

男女ともに平成 2 年→平成 7 年をピークに転入超過数が減少しています。



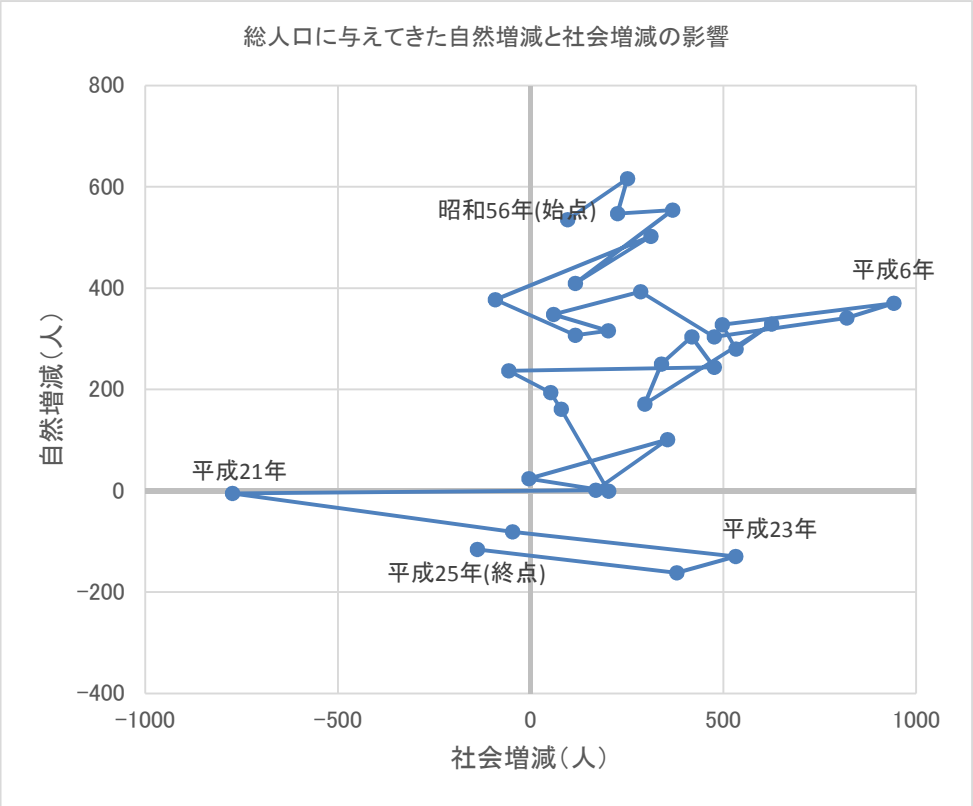


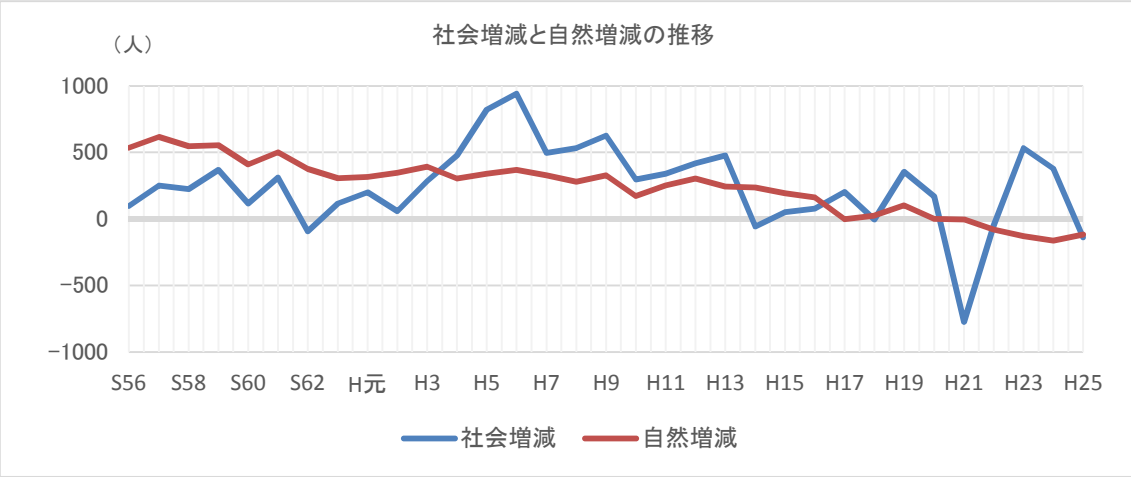
出典：国勢調査、都道府県生命表

（３）人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

昭和 56 年から平成 2 年までの人口増加期には自然増が社会増を上回っていましたが、平成 3 年から社会増が自然増を上回るようになりました。

その後、自然増及び社会増は右肩下がりに減少し、平成 21 年には社会減と自然減により人口減少に転じました。以降、社会増減の変化に伴って人口増減を繰り返しています。





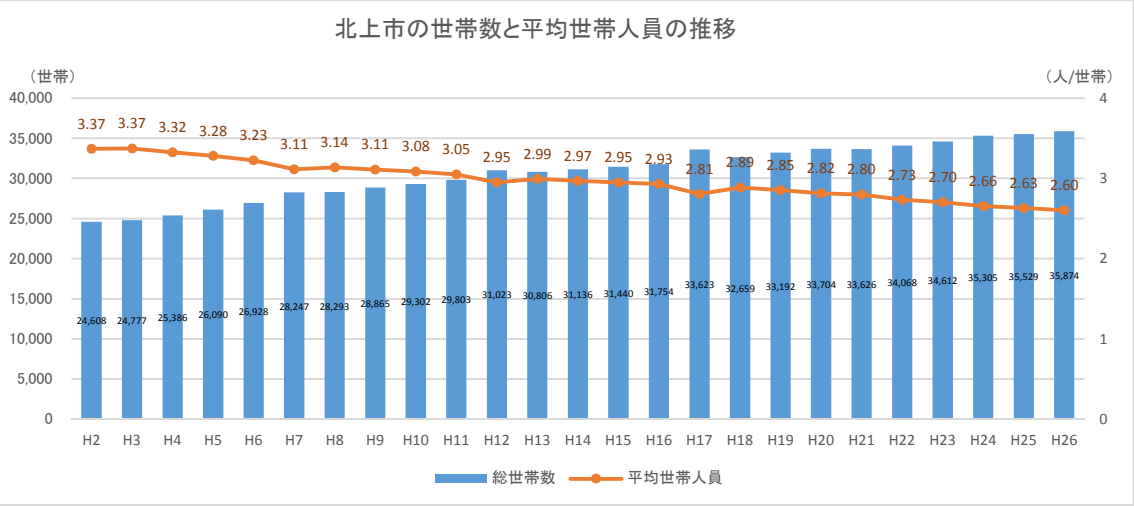
出典：北上市統計データ

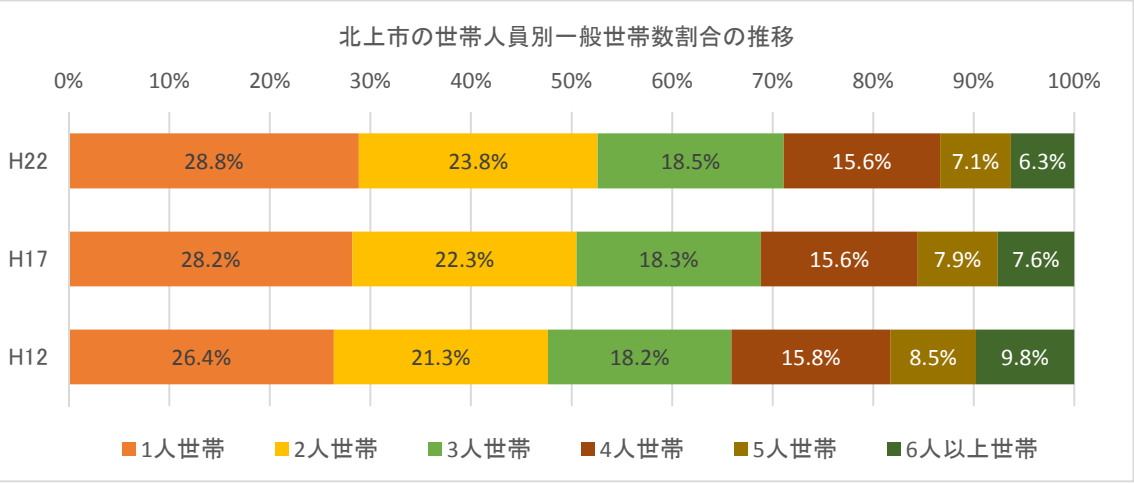
４． 世帯

（１）世帯数

北上市の世帯数は一貫して増加傾向にあり、平成 26 年では 35,874 世帯となっています。一方、平均世帯人員は減少傾向にあり、平成 26 年では 2.6 人となっています。

世帯人員別の一般世帯数割合は、「1 人世帯」や「2 人世帯」が増加し、「5 人世帯」や「6 人以上世帯」が減少しています。





（世帯）

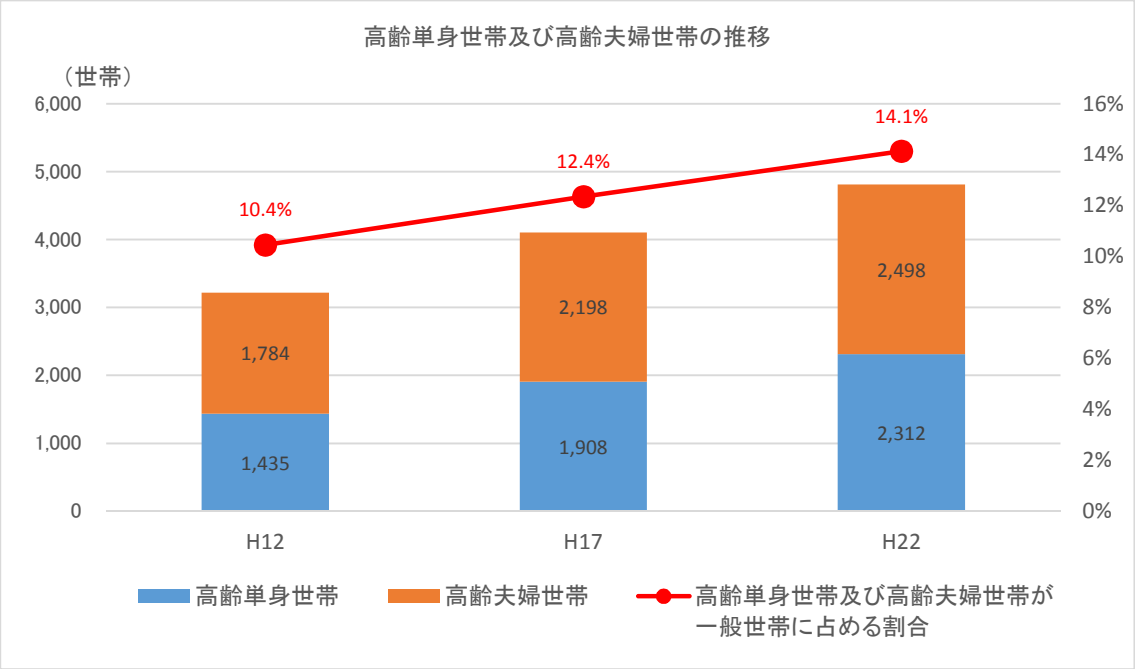
	1 人世帯	2 人世帯	3 人世帯	4 人世帯	5 人世帯	6 人以上世帯	合計
H22	9,815	8,082	6,290	5,294	2,399	2,147	34,027
H17	9,378	7,407	6,093	5,185	2,642	2,536	33,241
H12	8,125	6,561	5,615	4,867	2,628	3,014	30,810

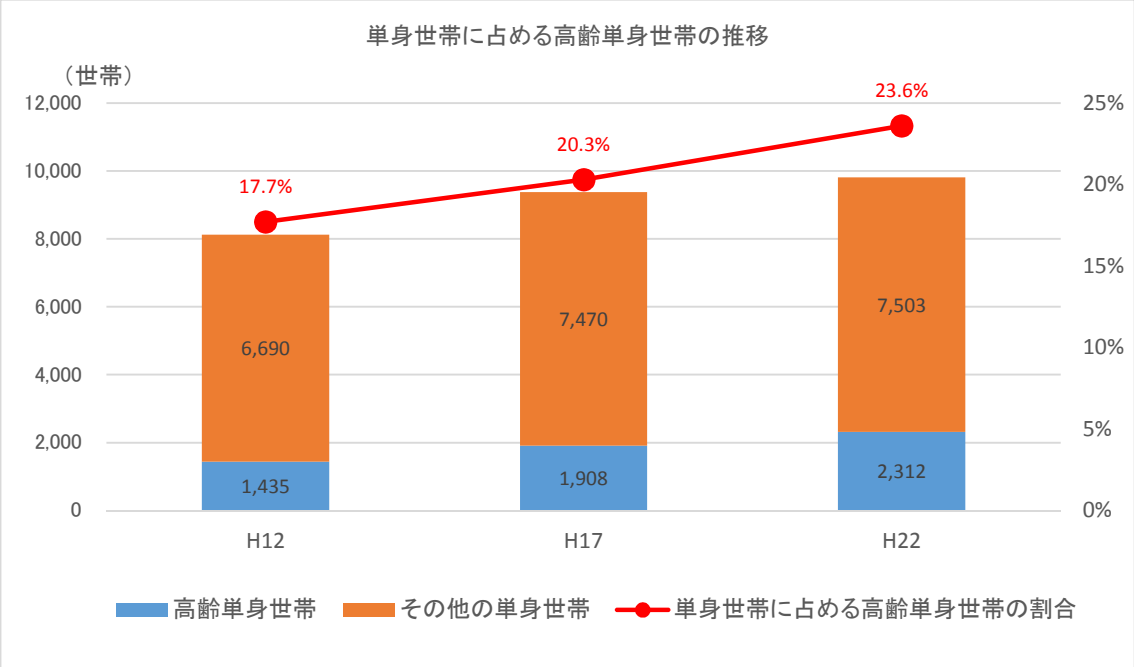
出典：国勢調査

（２）高齢単身・夫婦世帯

北上市の高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯は増加傾向にあり、平成 12 年から平成 22 年の 10 年間で高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯の合計数は約 1.5 倍となっています。

単身世帯が増加する中、高齢単身世帯の割合が高まっています。





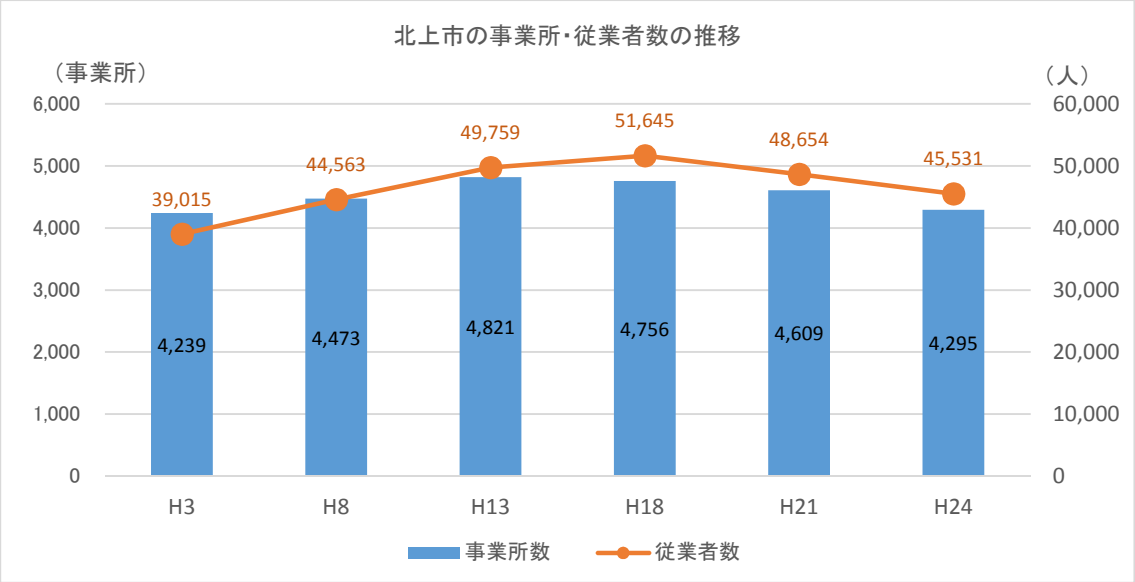
出典：国勢調査

５．産業

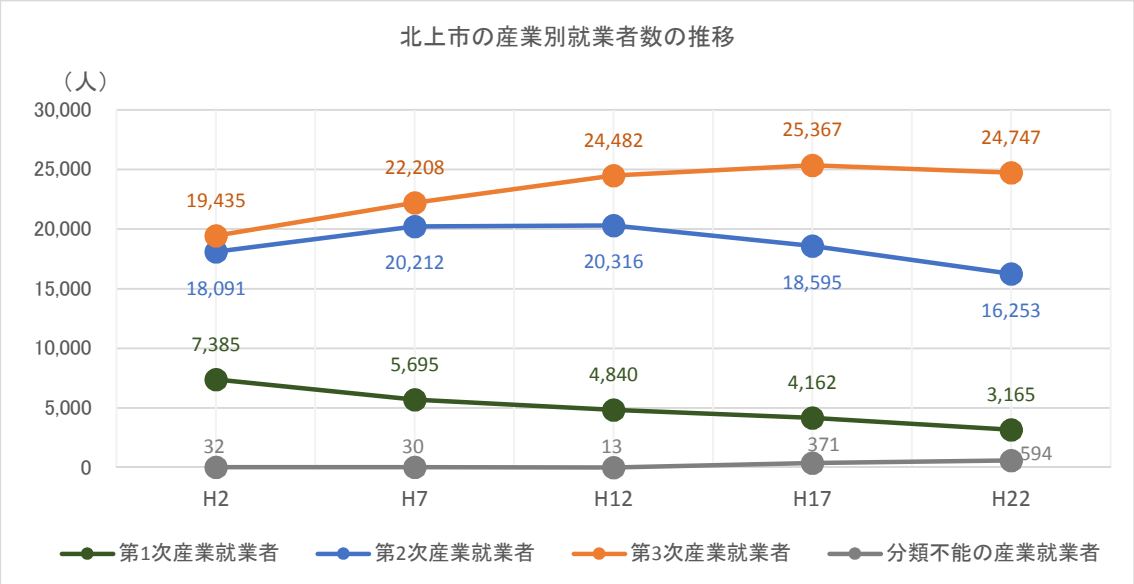
（１）事業所及び従業者数、産業別就業者数

北上市の事業所数は平成 13 年をピークに、従業者数は平成 18 年をピークに減少傾向にあります。

産業別就業者数をみると、第 1 次産業就業者数は平成 2 年から平成 22 年にかけて半数以下に減少し、第 2 次産業就業者数は平成 12 年から平成 22 年の 10 年間で約 4,000 人減少しています。第 3 次産業就業者数は増加傾向が続いていましたが、平成 22 年は減少に転じています。



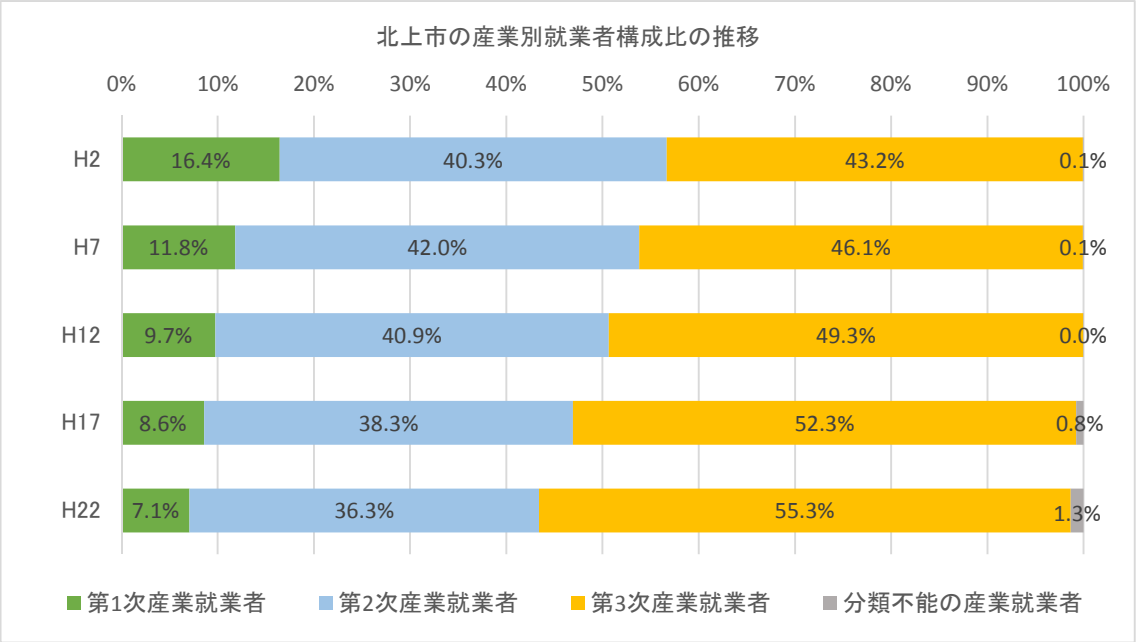
出典：北上市統計書
（事業所・企業統計調査報告（岩手県）、経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査）

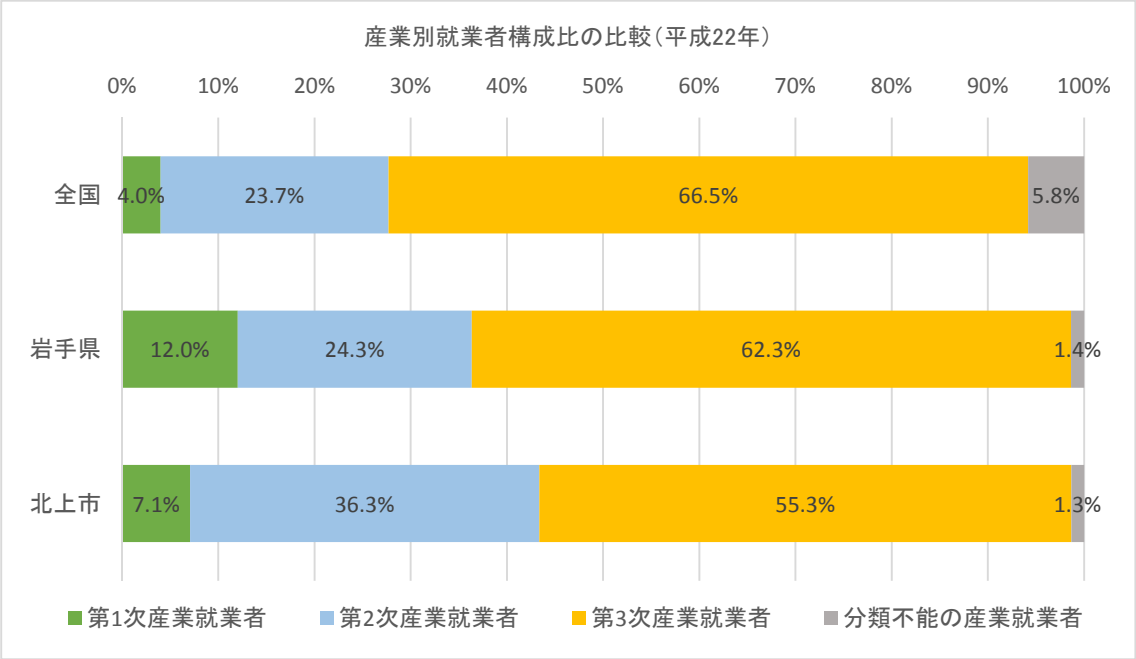


出典：国勢調査

第 1 次産業及び第 2 次産業就業者の構成比が減少し、平成 17 年には 50%以上が第 3 次産業就業者となっています。

第 1 次産業就業者の構成比は全国よりは高くなっているものの、岩手県より低くなっています。また、第 2 次産業就業者の構成比は全国や岩手県より高くなっています。



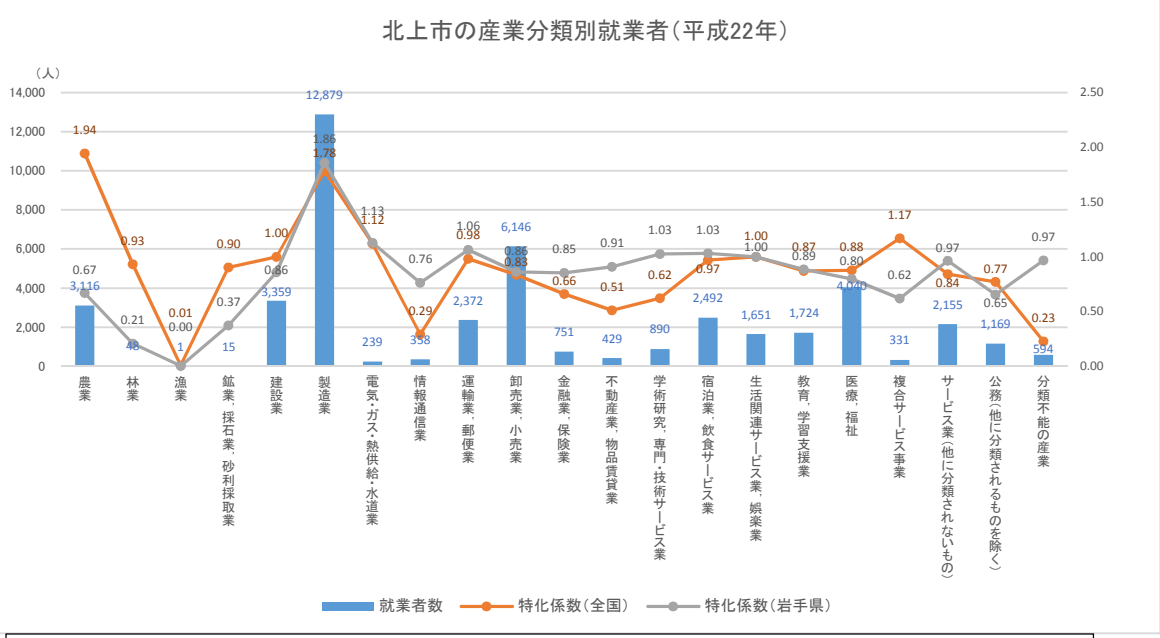


出典：国勢調査

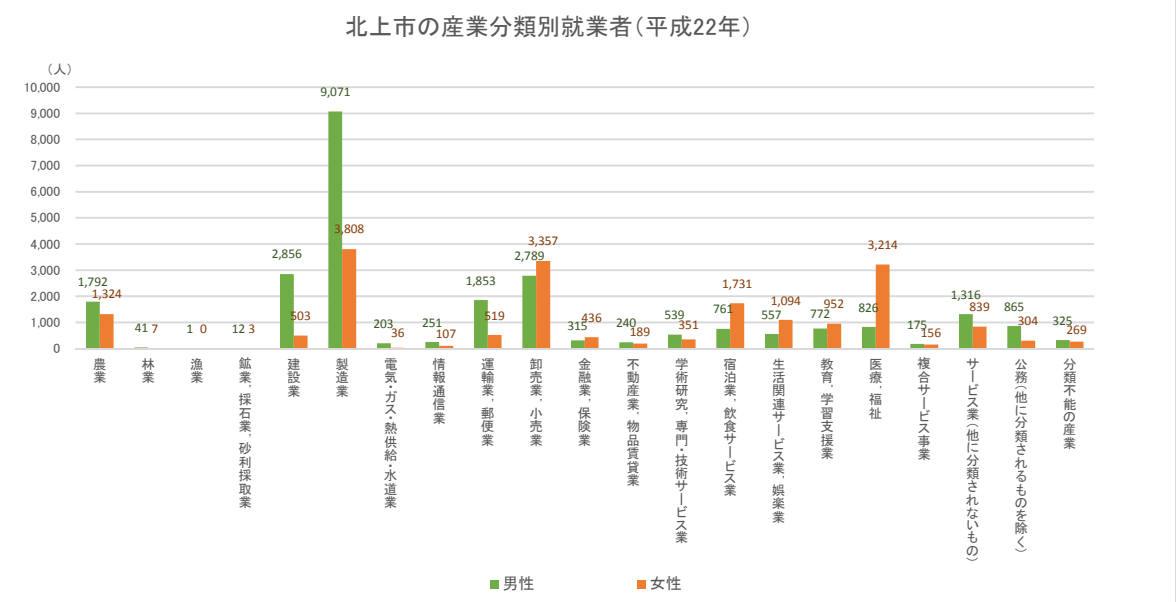
（２）産業特化係数及び男女別就業者数

北上市の全国に対する産業特化係数では、「農業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「複合サービス業」で 1.0 を超えています。また、岩手県に対する産業特化係数では、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「運輸業・郵便業」、「学術研究・専門技術サービス業」、「宿泊業、飲食サービス業」で 1.0 を超えています。

北上市の男女別産業分類別就業者数では、男性は「製造業」、女性は「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の就業者が多くなっています。



※特化係数：地域のある産業が、全国または県と比べてどれだけ特化しているかを見る係数であり、特化係数が 1 であれば全国や県と同様、１以上であれば全国や県と比べてその産業が特化していると考えられる。

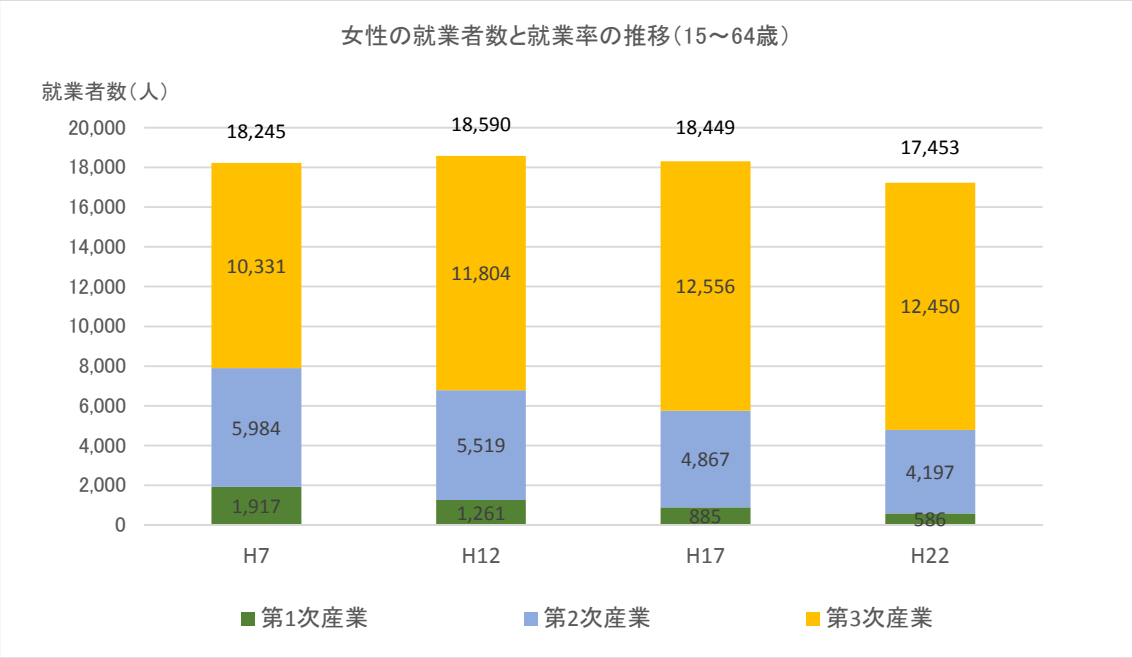


出典：国勢調査

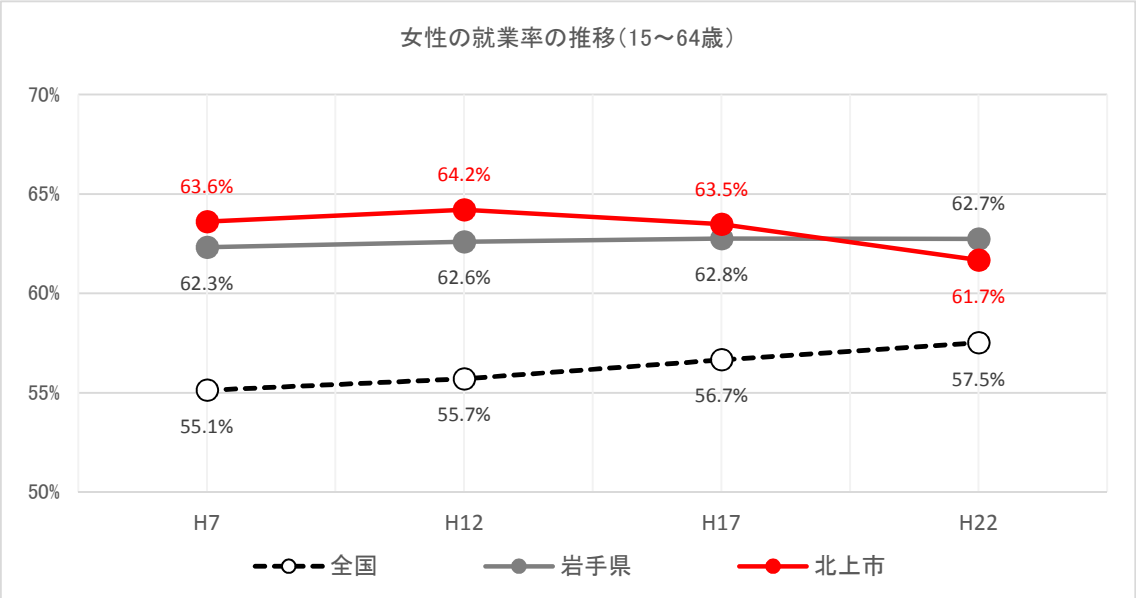
北上市の女性の就業者数は平成 12 年をピークに減少傾向にあります。

産業別では、第 1 次産業及び第 2 次産業就業者数は一貫して減少が続いており、第 3 次産業就業者数も平成 17 年をピークに減少しています。

また、女性の就業率は全国が増加傾向にあるのに対し、岩手県は横ばい、北上市は減少傾向にあります。



出典：国勢調査

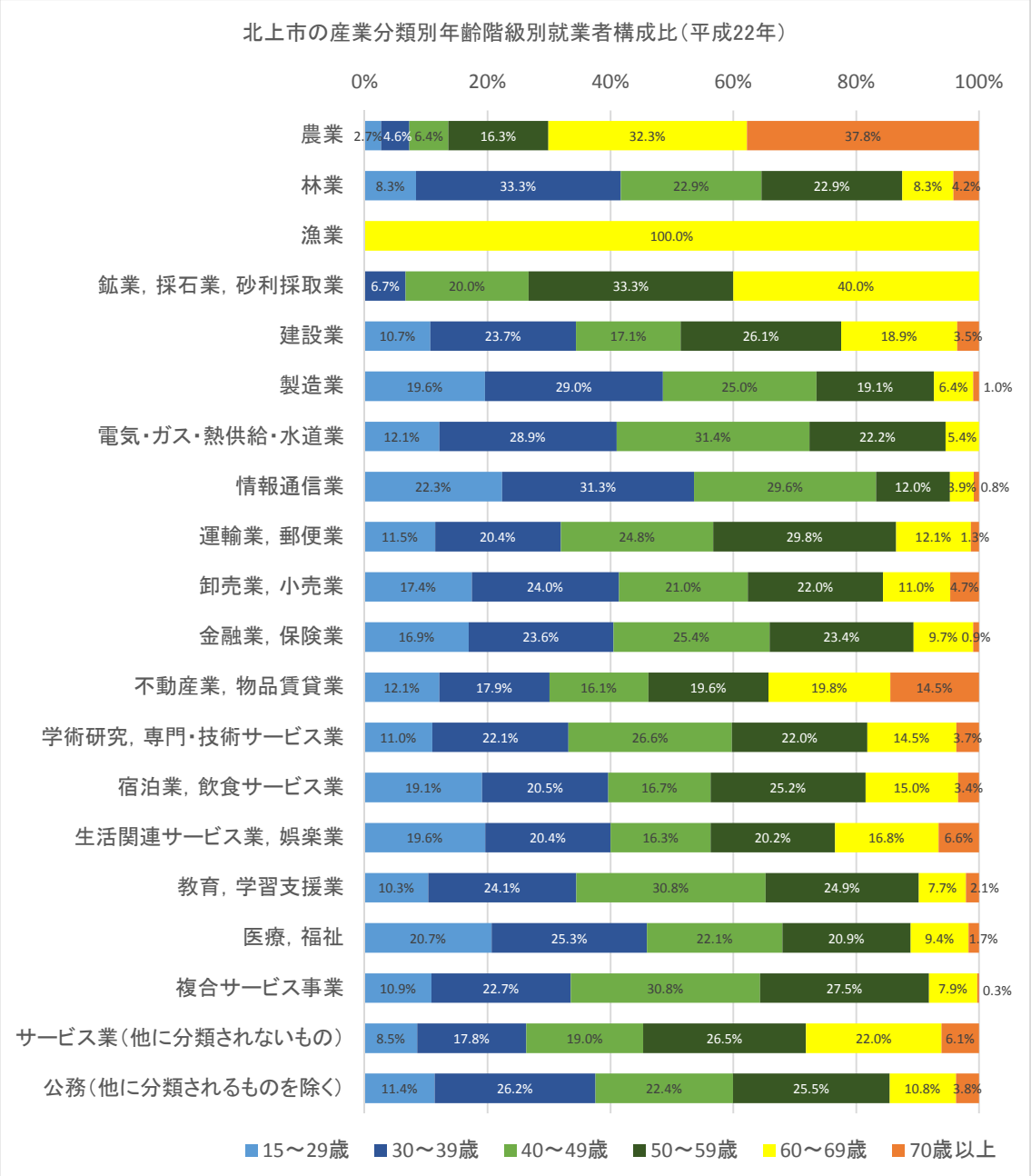


出典：国勢調査

（３） 年齢階級別産業人口

北上市の年齢階級別の産業人口をみると、「情報通信業」、「製造業」、「医療・福祉」は15～29 歳及び 30～39 歳の若い世代が 50%前後を占めています。

一方で、「農業」は 60 歳以上が 70%以上を占めています。



出典：国勢調査